

平成30年臨床研修指導医アンケート 調査結果

平成30年臨床研修指導医アンケート調査結果

<調査概要>

対象者：平成30年3月修了者に対する臨床研修指導医

調査方法：厚生労働省より自記式質問票を送付し、地方厚生局へ提出

調査期間：平成30年3月1日～平成30年3月末

<回収状況>

配布対象者	回収数(参考H29)	回収率
3,7814	24,247 (25,678)	64.1%

<回答者の性別>

性別	人数	割合	参考H29
男性	20,247	83.5%	84.2%
女性	3,183	13.1%	12.4%
無回答	817	3.4%	3.4%

<指導を行った病院の所在地>

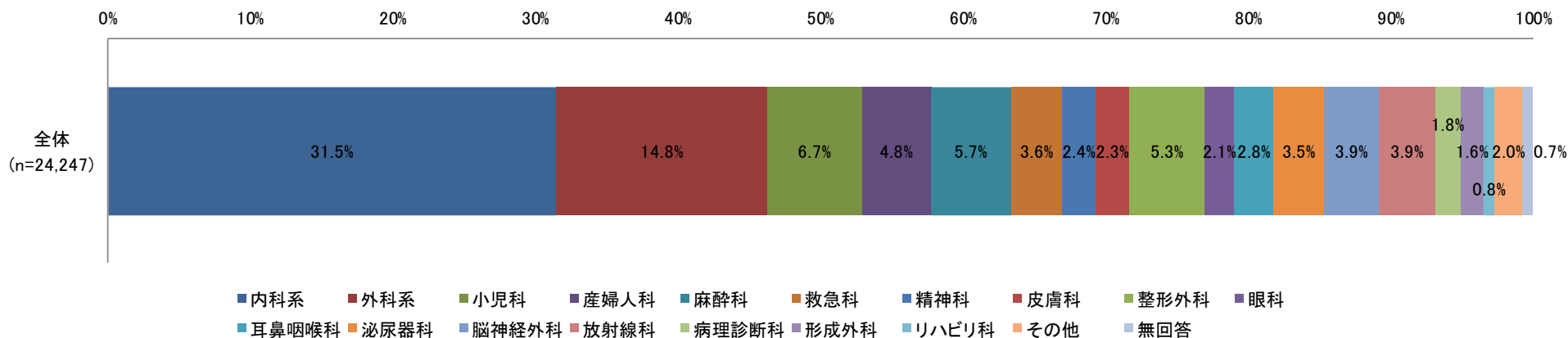
地域	人数	割合	参考H29
北海道	767	3.2%	3.5%
東北	2,190	9.0%	9.5%
関東信越	8,546	35.2%	34.9%
東海北陸	3,964	16.3%	16.0%
近畿	3,658	15.1%	15.2%
中国・四国	2,523	10.4%	11.3%
九州・沖縄	2,574	10.6%	9.8%
無回答	25	0.1%	0.0%

<回答者が受けた臨床研修>

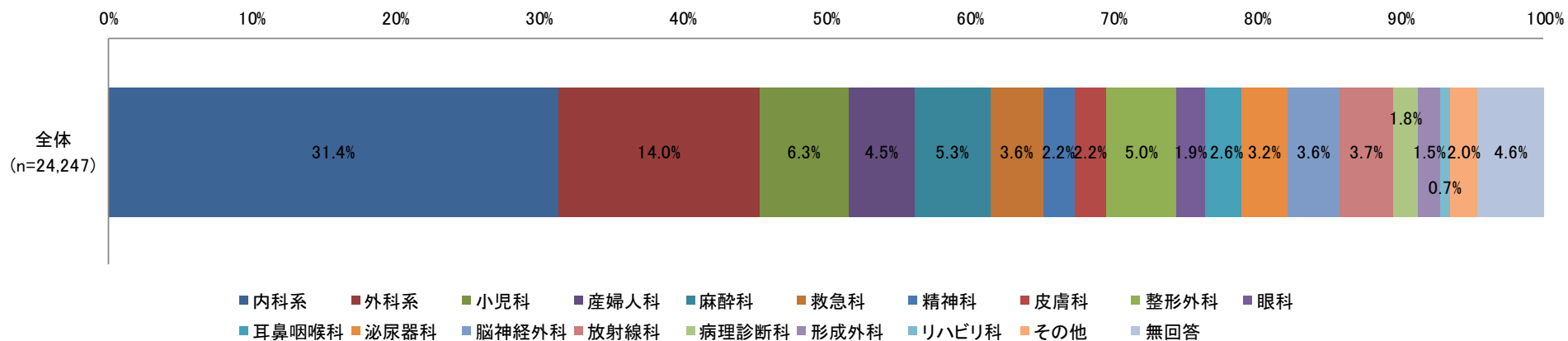
指導医自身が受けた臨床研修の種類	人数	割合	参考H29
平成15年度以前(臨床研修必修化前)の臨床研修	18,848	77.7%	80.6%
平成16年度以降(臨床研修必修化後)の臨床研修	4,532	18.7%	15.6%
その他	544	2.2%	2.8%
無回答	323	1.3%	1.1%

診療科・基礎系分野

【現在従事している診療科・基礎系分野】



【臨床研修で指導医として担当している診療科目】



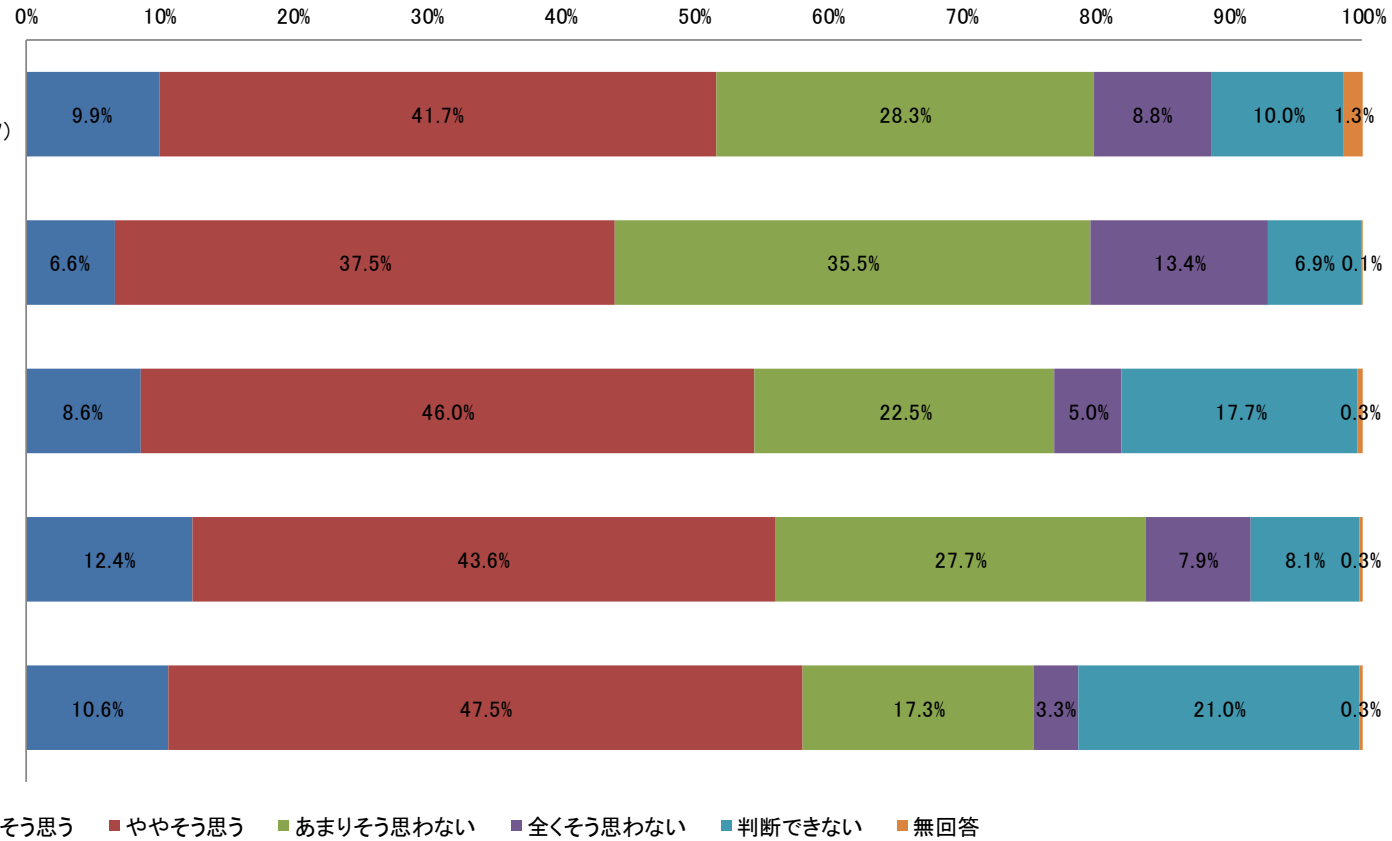
※「内科系」・・・内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科(胃腸内科)、腎臓内科、神経内科、糖尿病内科(代謝内科)、血液内科、アレルギー科、リウマチ科、感染症内科、心療内科

※「外科系」・・・外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科、肛門外科、小児外科

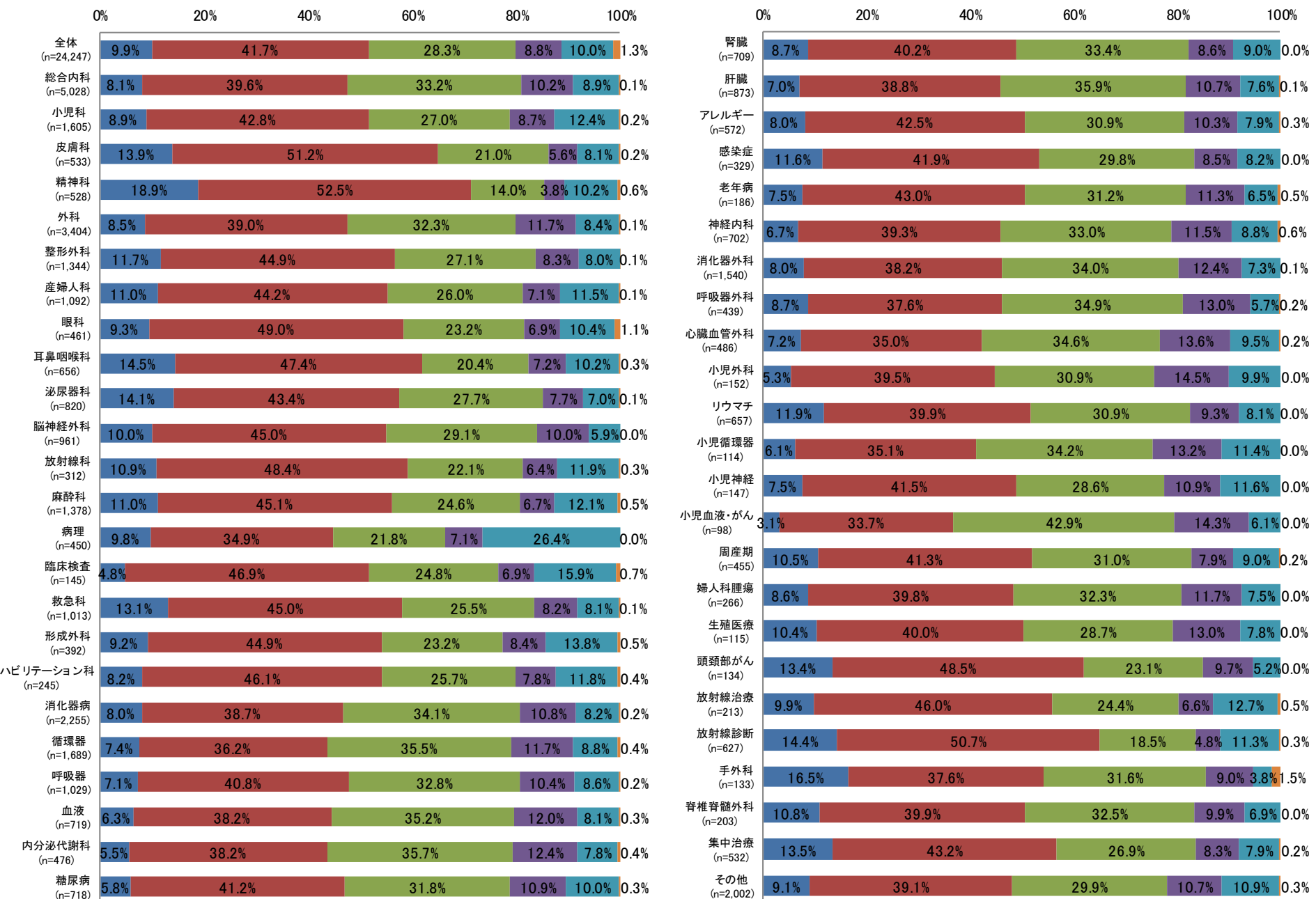
※「産婦人科」・・・産婦人科、産科、婦人科

回答者が指導を行った病院の種別
×
回答者が受けた臨床研修別の集計

医師臨床研修制度導入により総合的な診療能力は高まったか

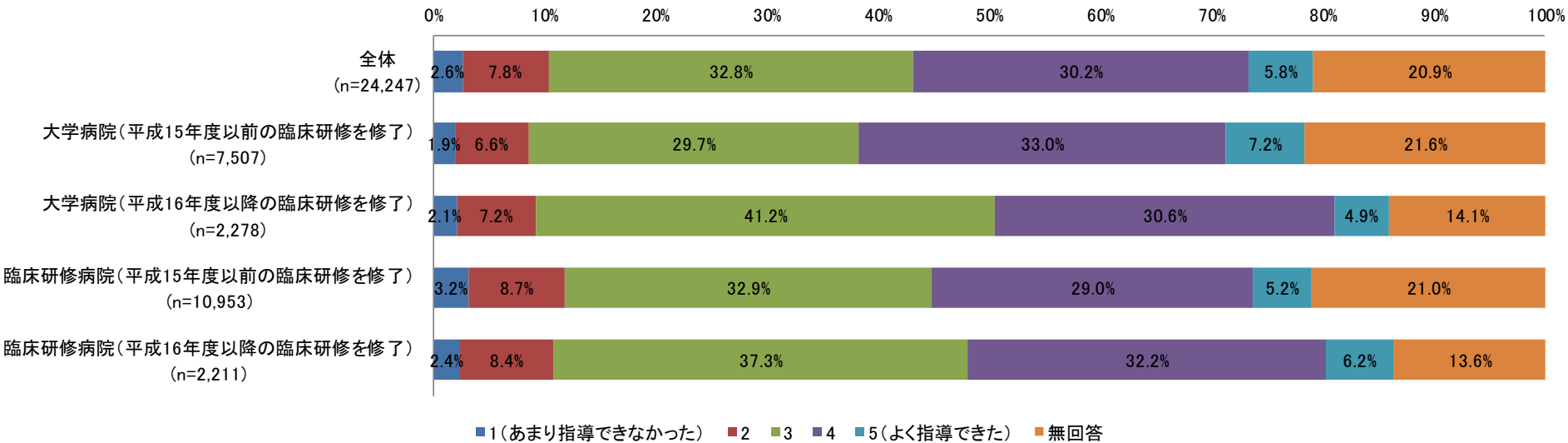


医師臨床研修制度導入により診療能力は高まったか（専門医資格別）

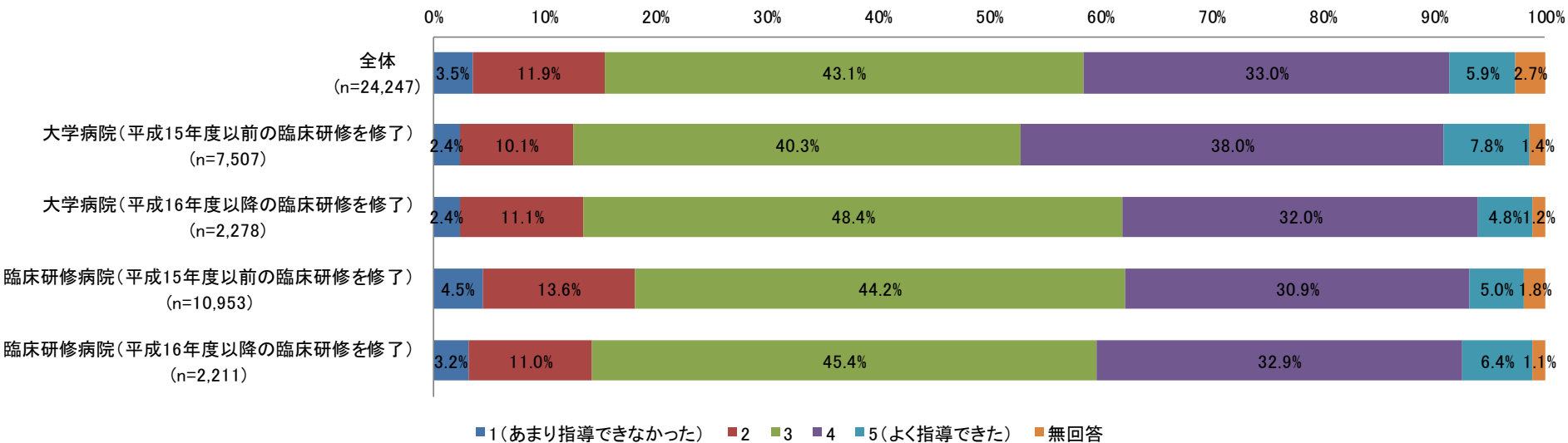


実施した指導

【医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)】

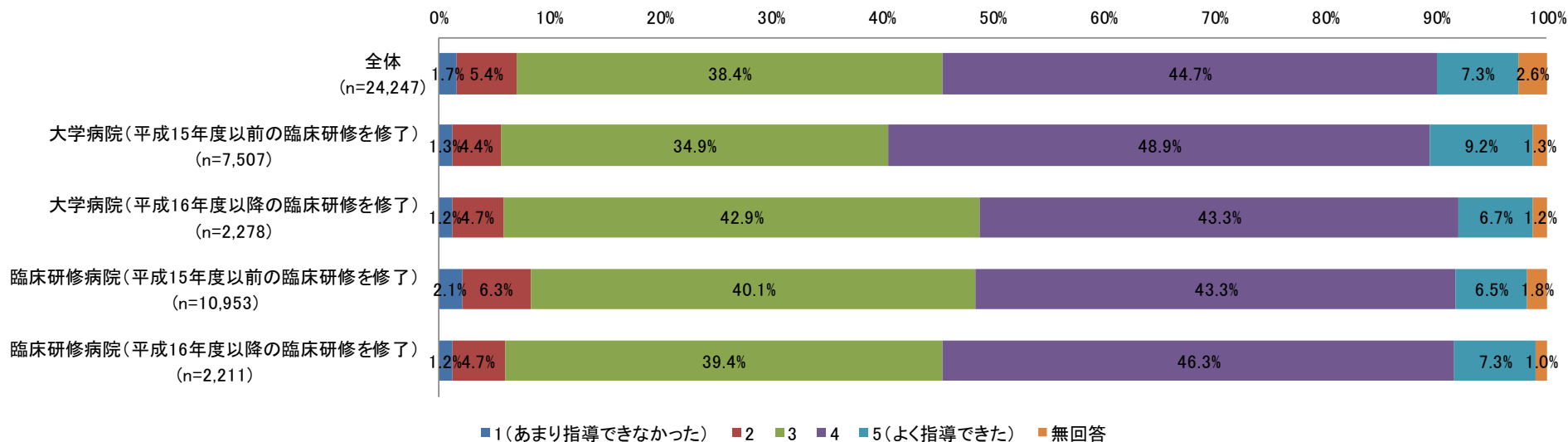


【医学・医療における倫理性】

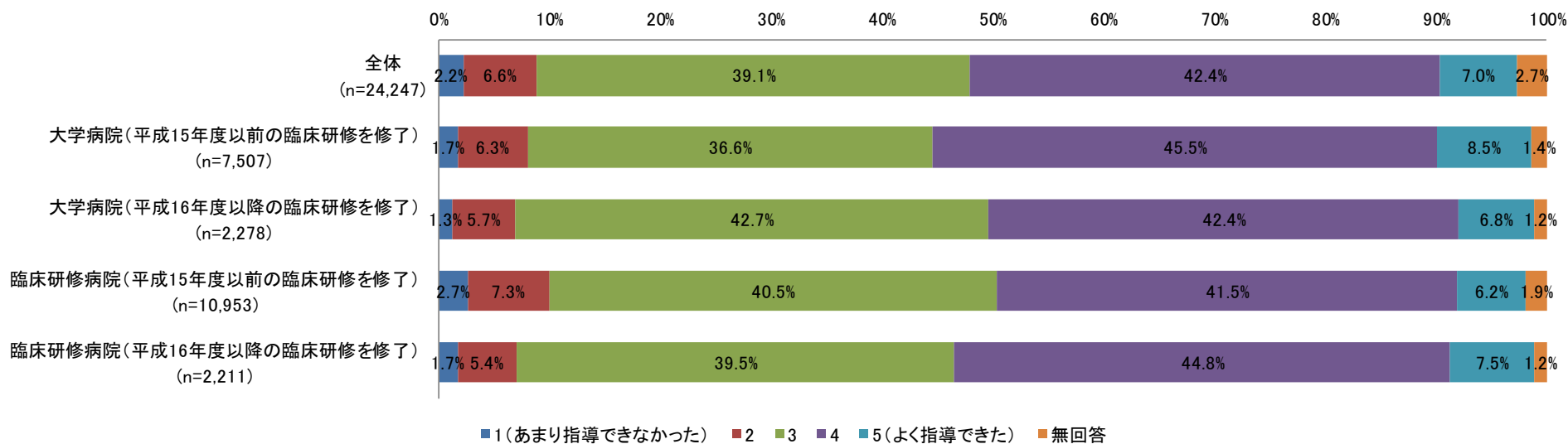


実施した指導

【医学知識と問題対応能力】

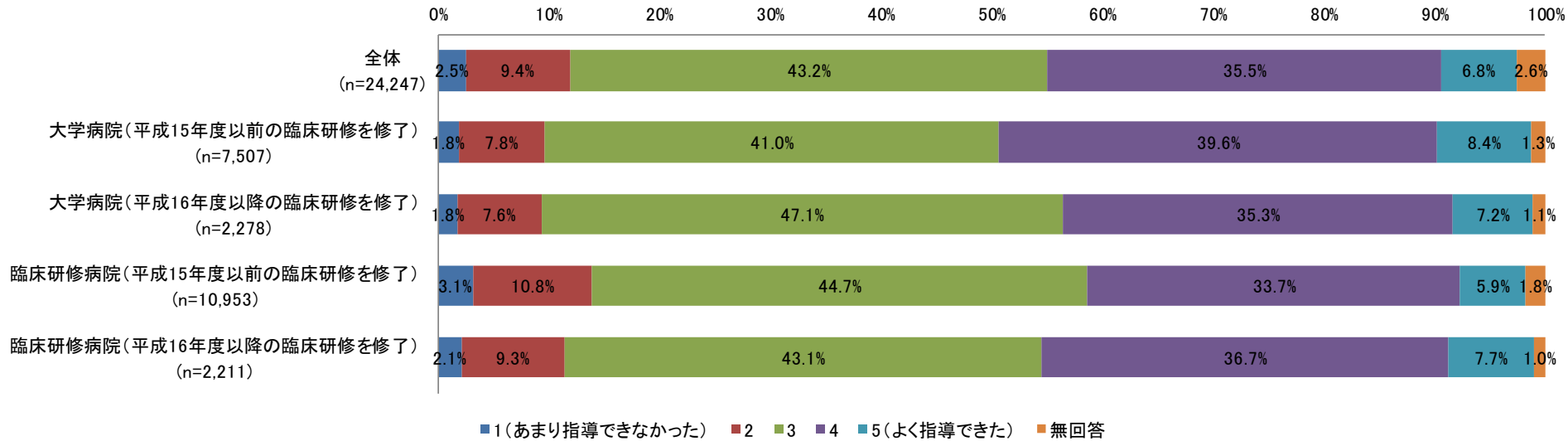


【診療技能と患者ケア】

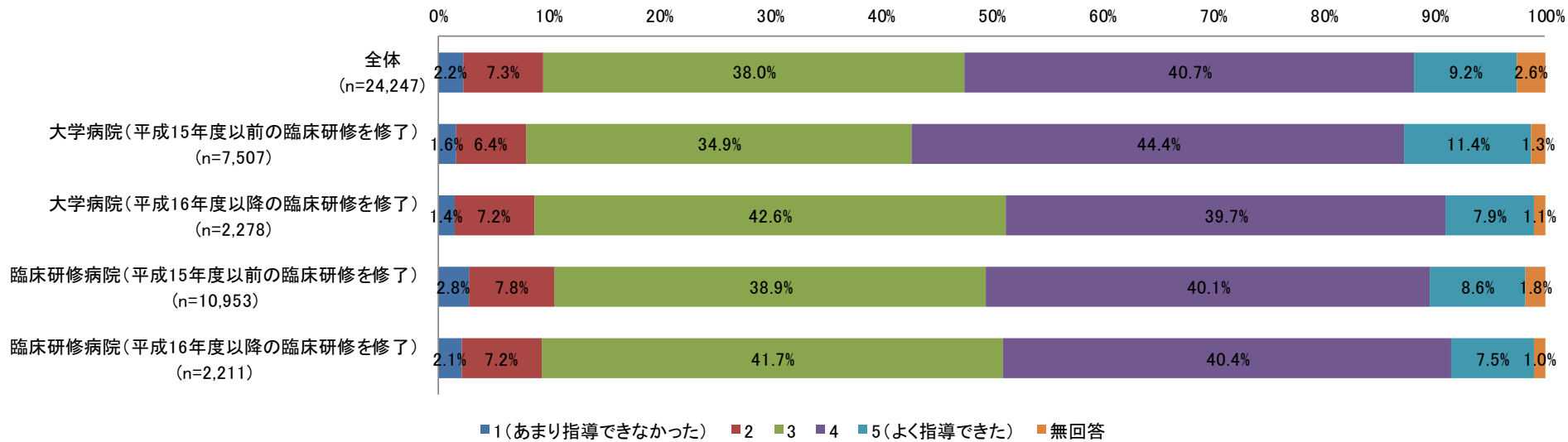


実施した指導

【コミュニケーション能力】

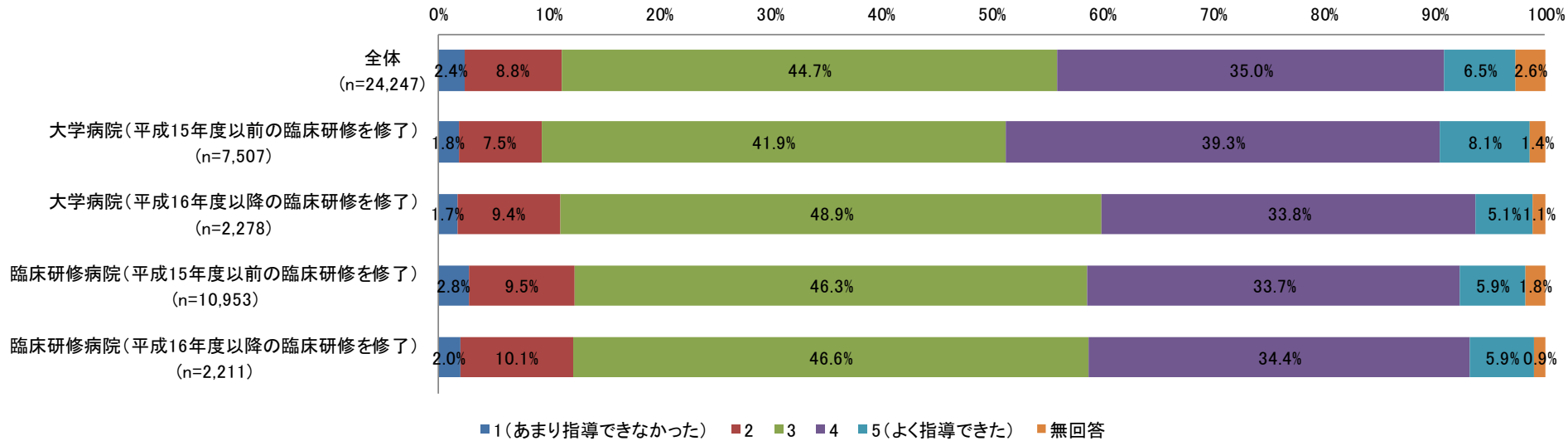


【チーム医療の実践】

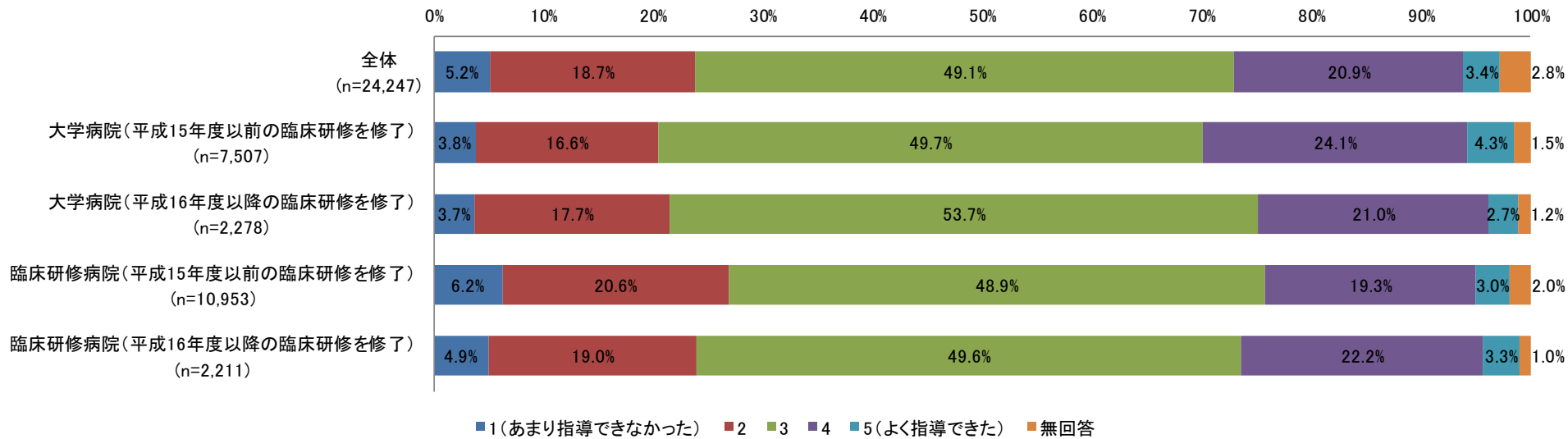


実施した指導

【医療の質と安全の管理】

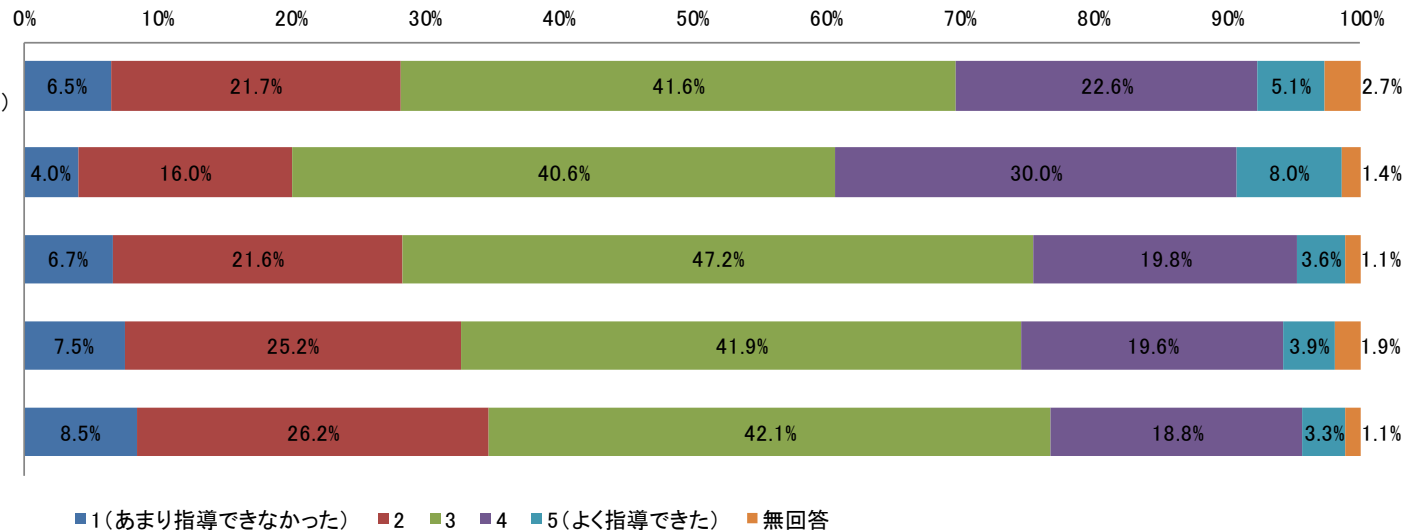


【社会における医療の実践】

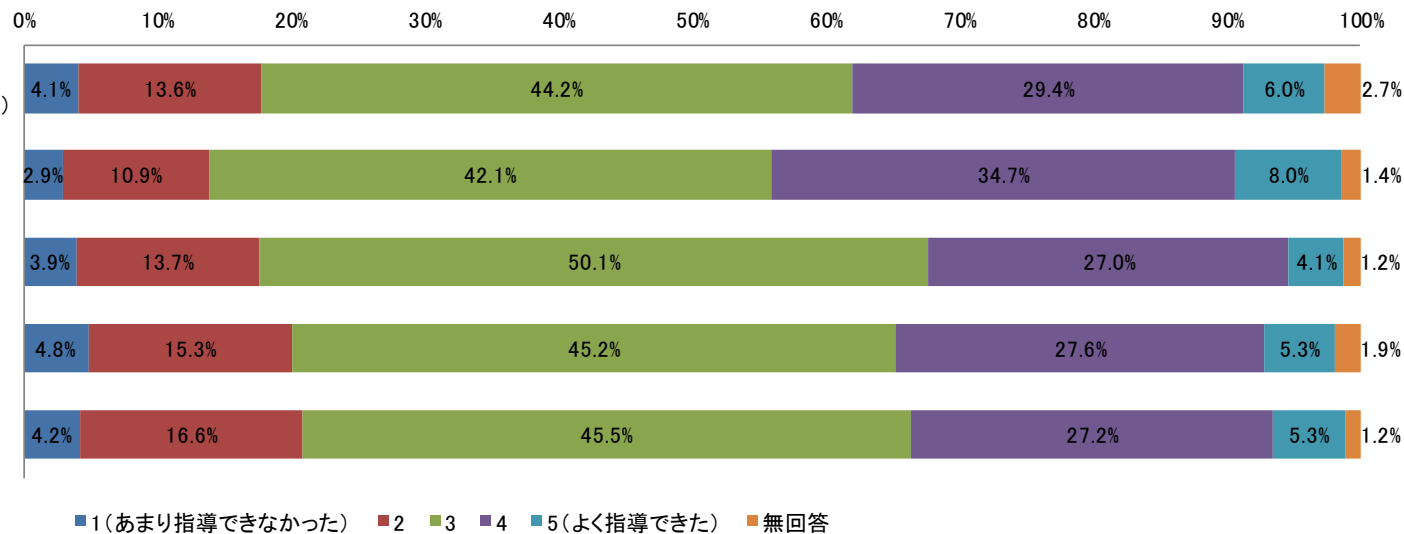


実施した指導

【科学的探究】

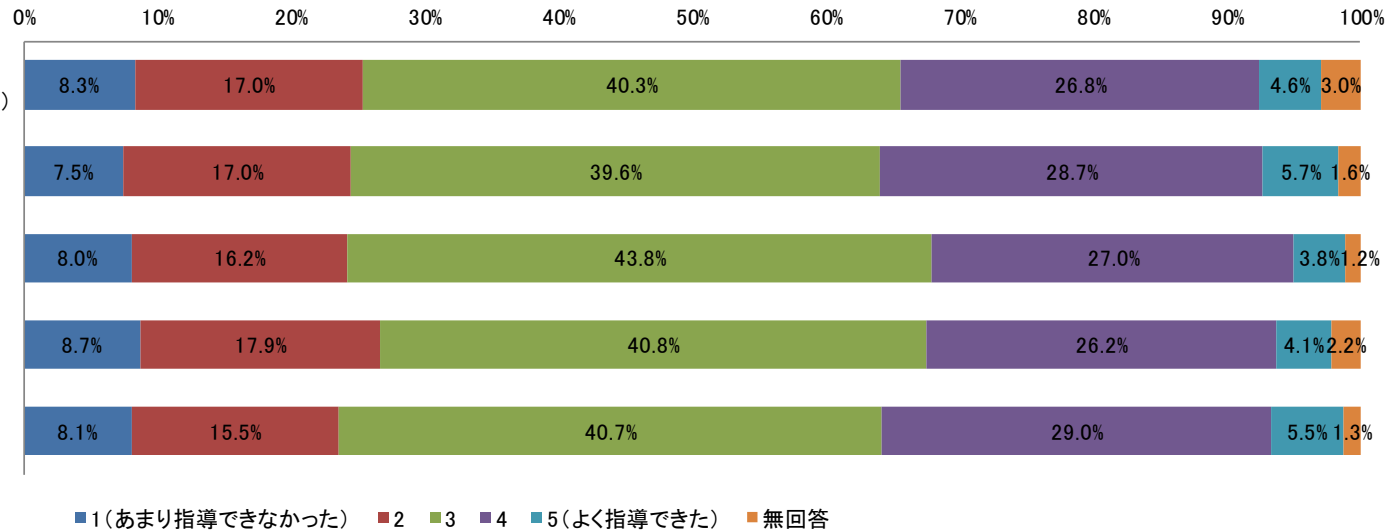


【生涯にわたってともに学ぶ姿勢】

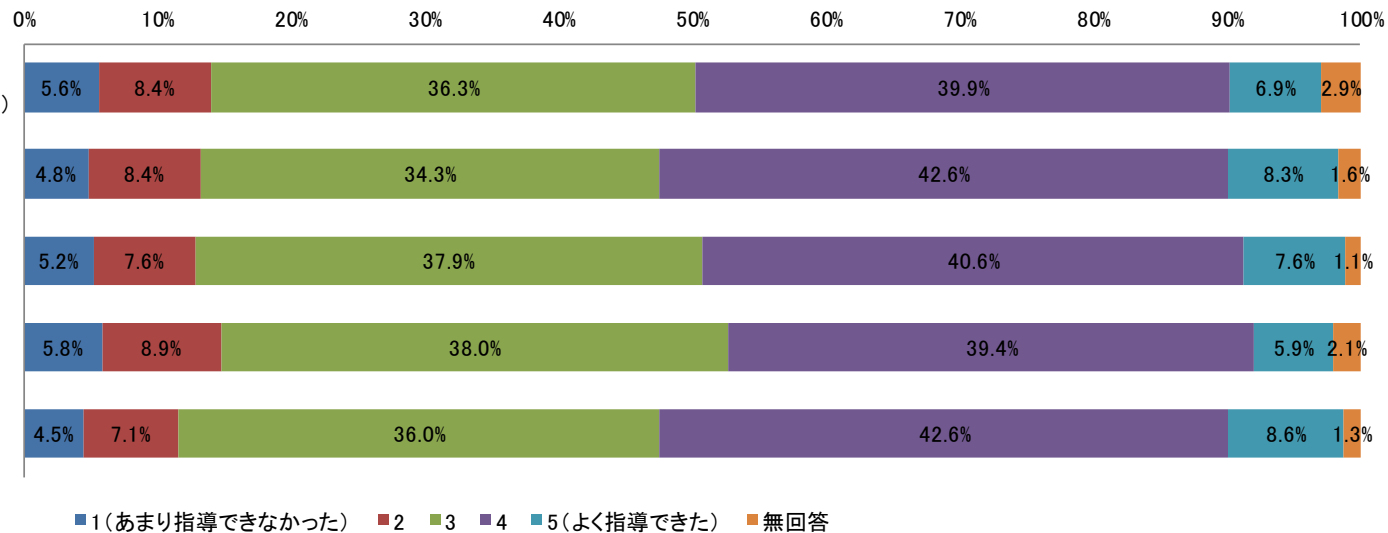


実施した指導

【一般外来における診療能力】

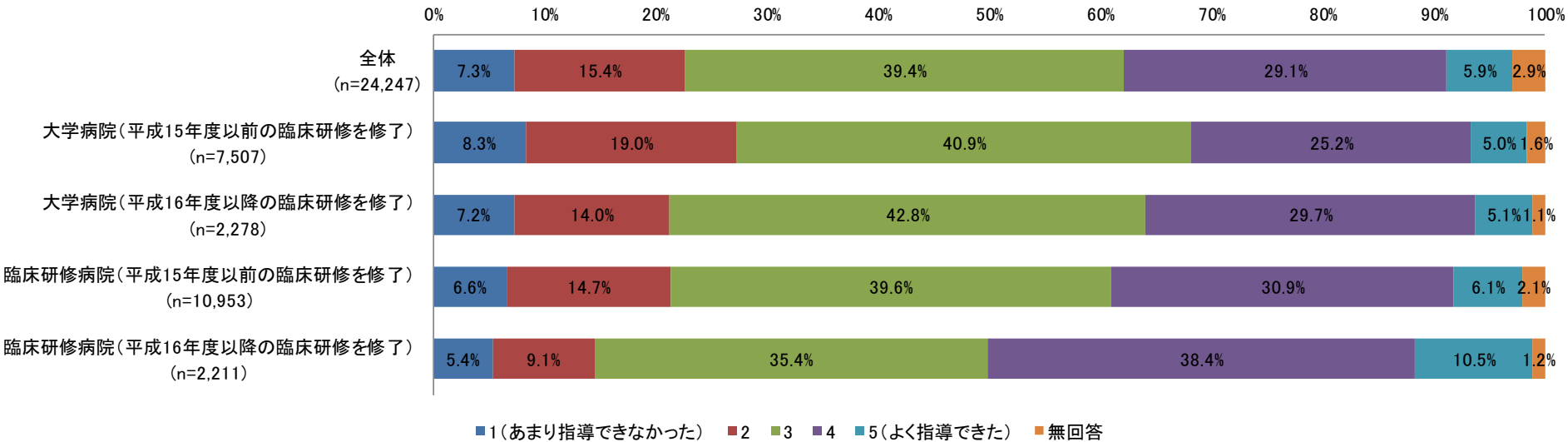


【病棟における診療能力】

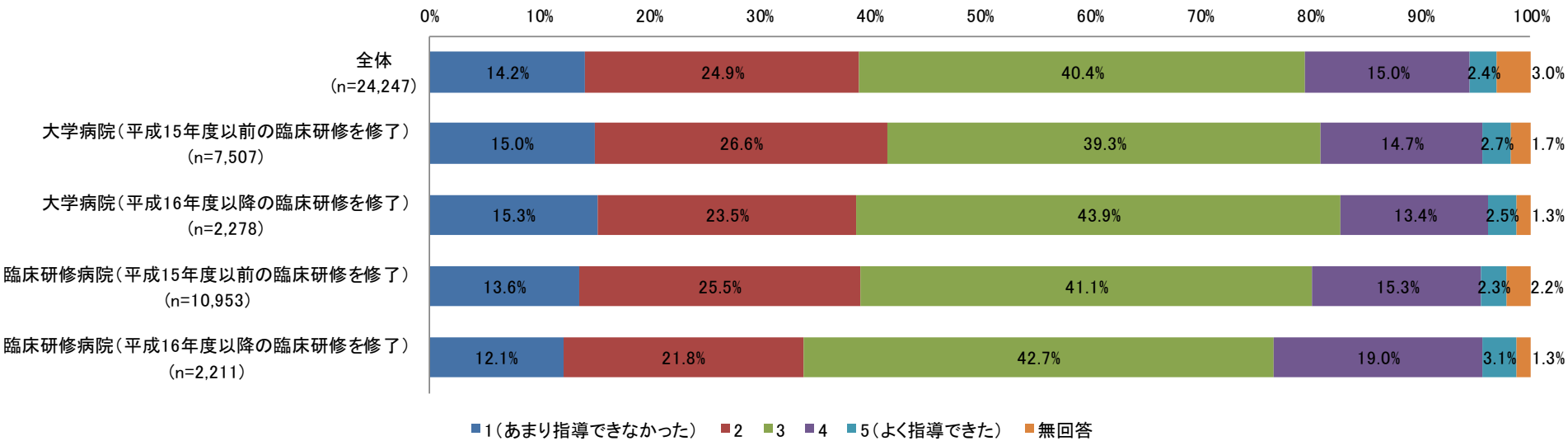


実施した指導

【初期救急における診療能力】

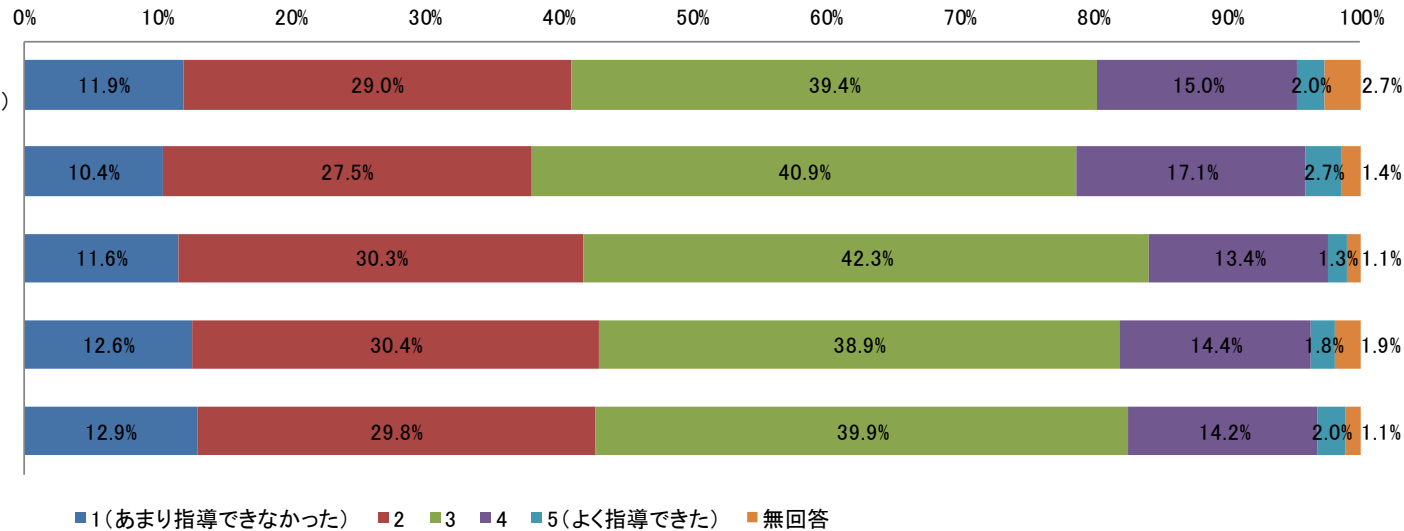


【地域医療における診療能力】

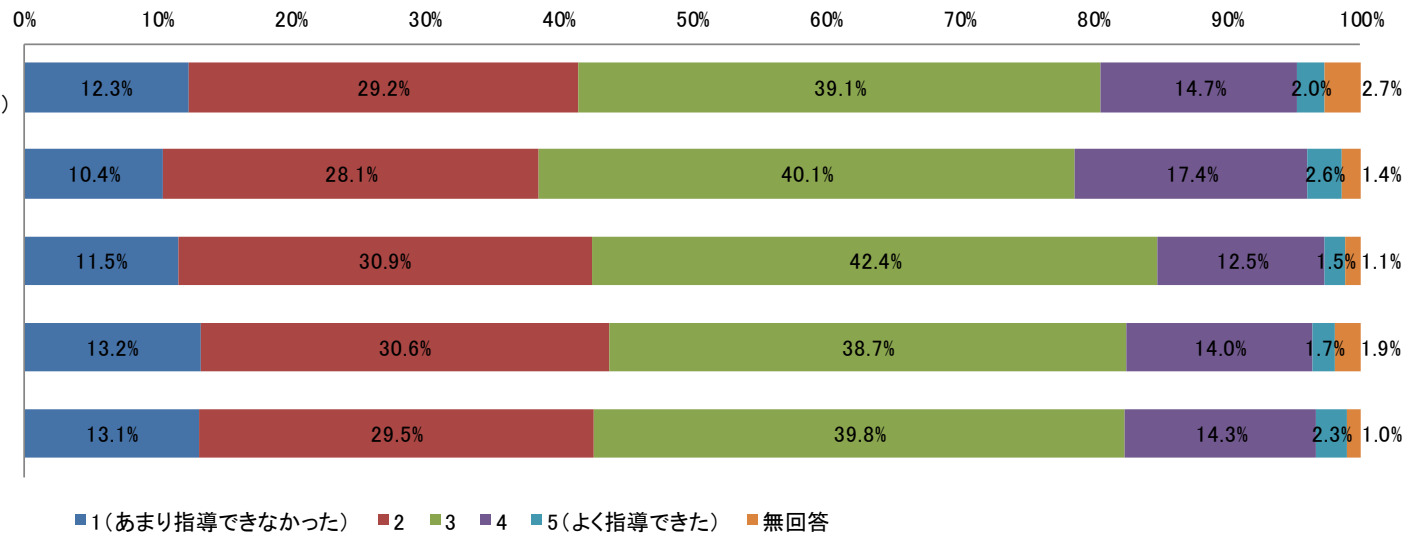


医療の持つ社会的側面を踏まえた指導

【保健医療に関する法規・制度の目的と仕組み】

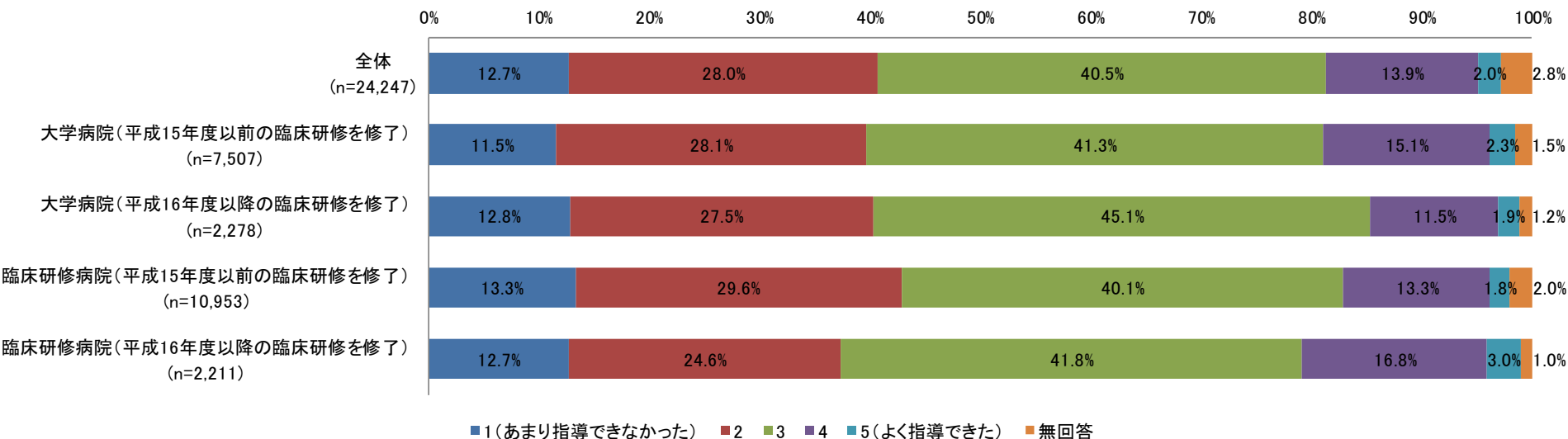


【健康保険、公費負担医療の適切な活用】

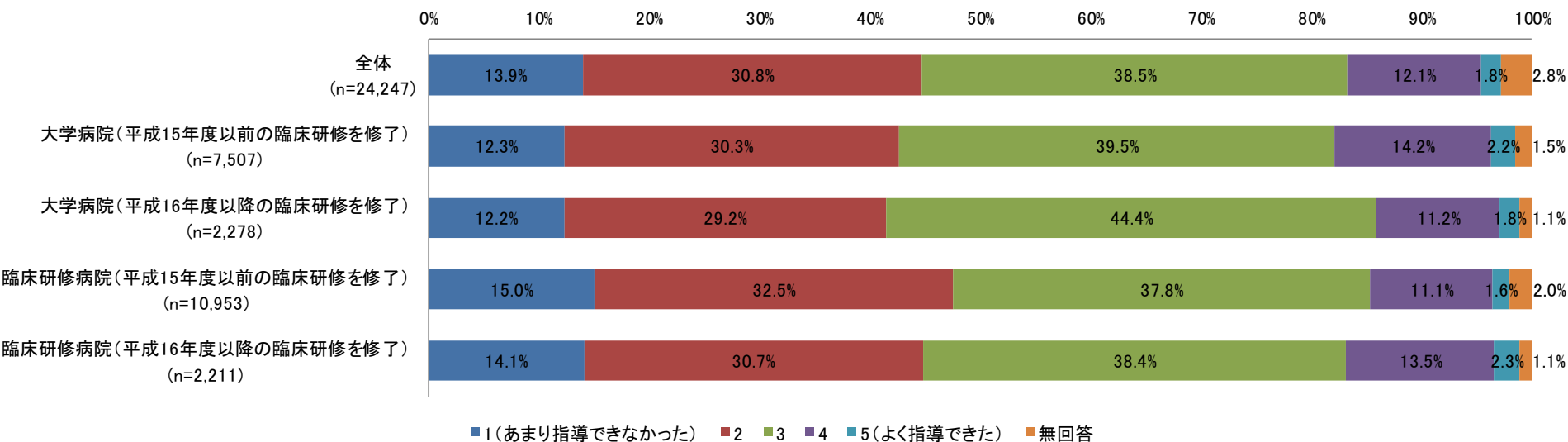


医療の持つ社会的側面を踏まえた指導

【地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を行うこと】

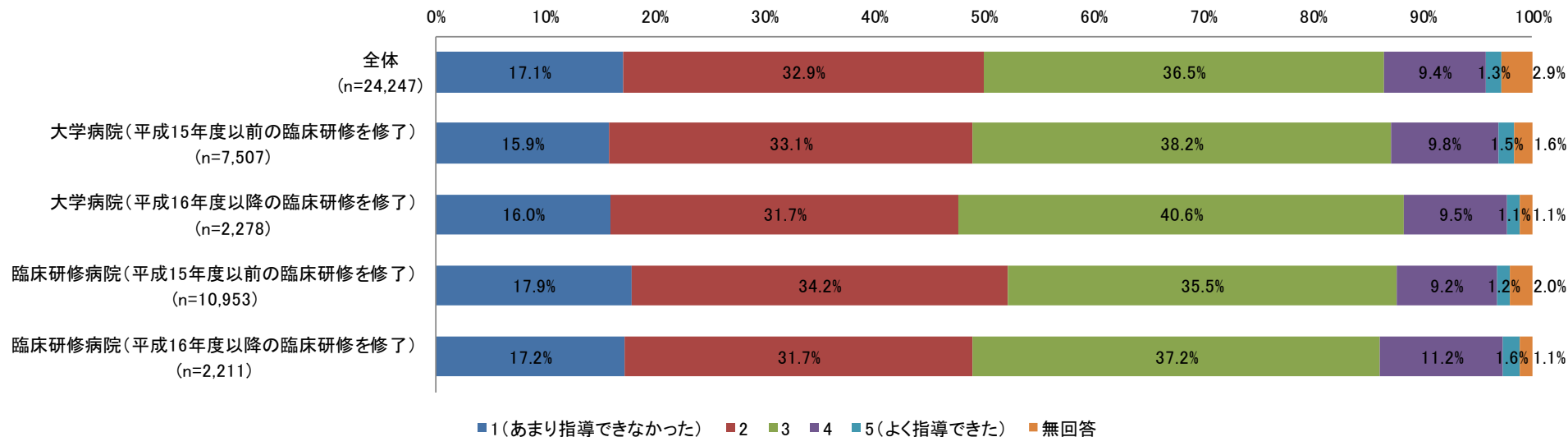


【予防医療・保健・健康増進】

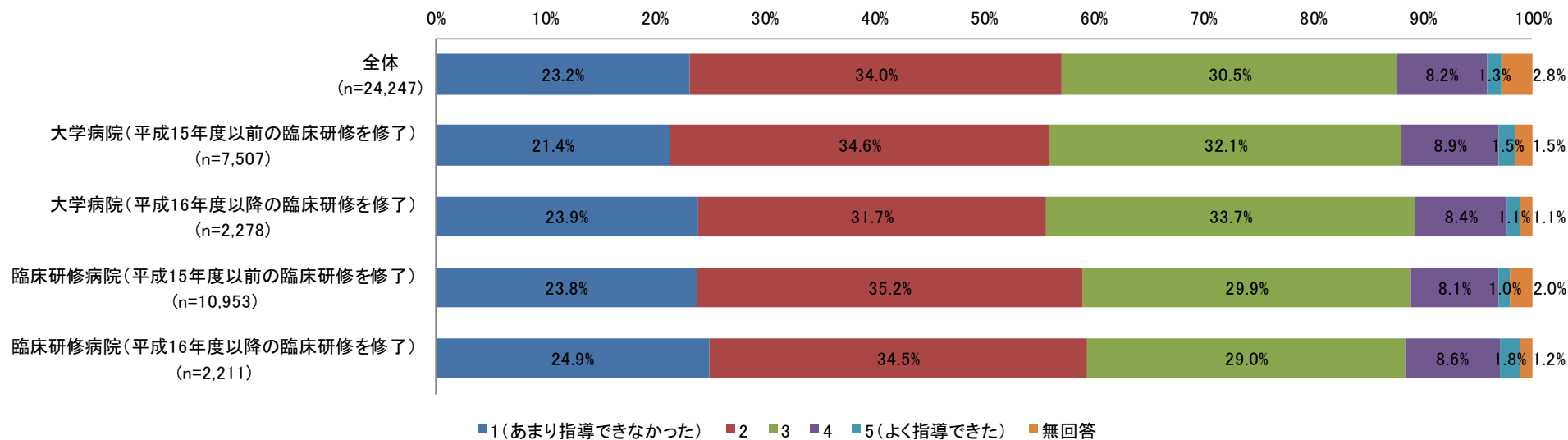


医療の持つ社会的側面を踏まえた指導

【地域包括ケアシステムの推進】

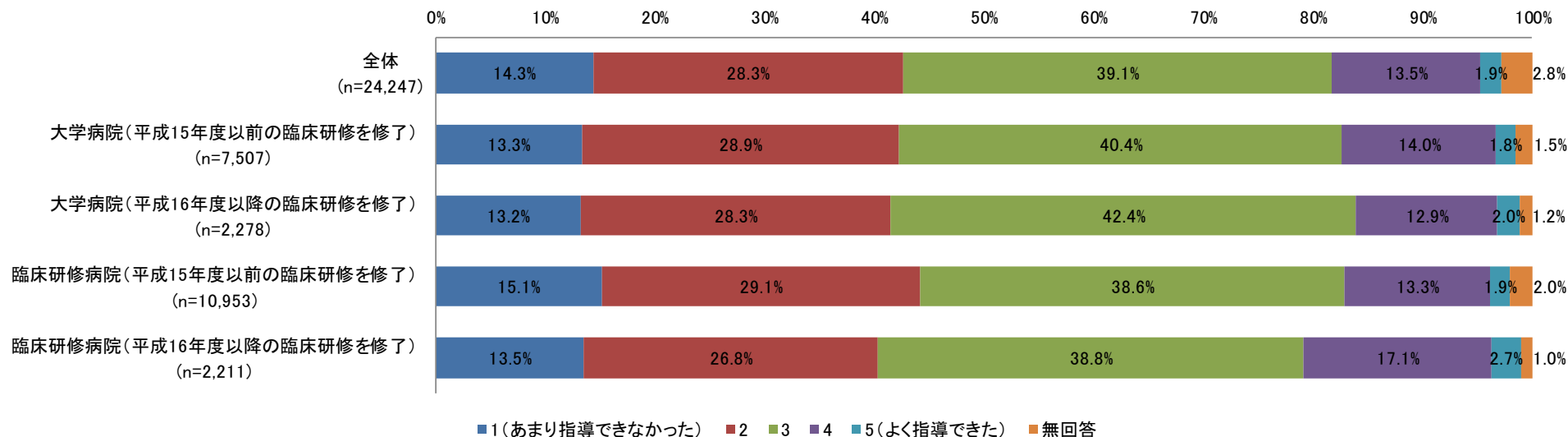


【災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要】

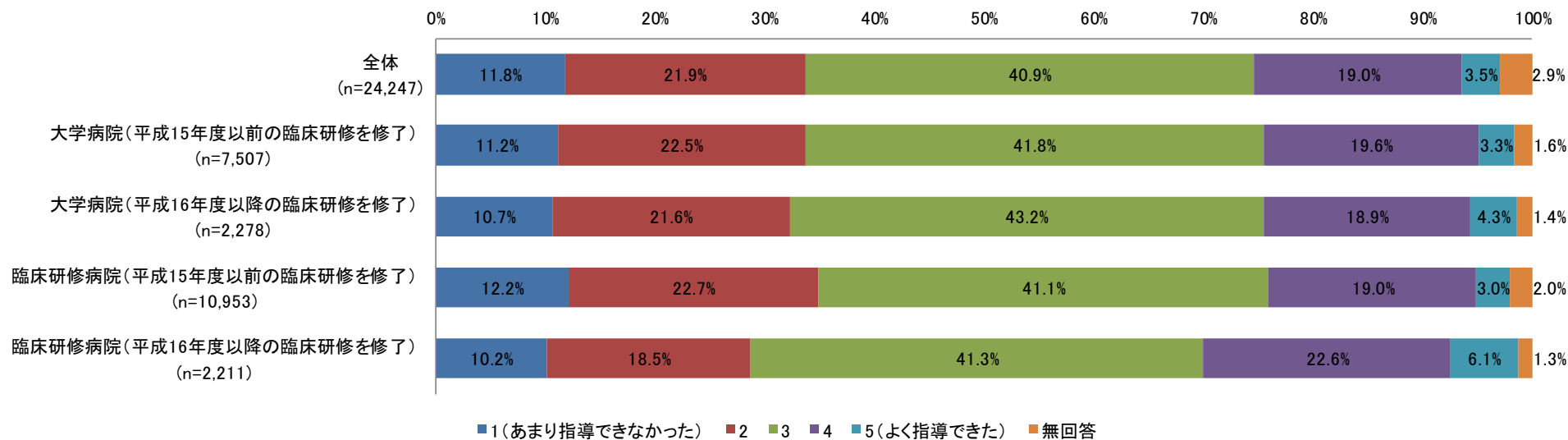


医療の持つ社会的側面を踏まえた指導

【後発品など薬効と価格を考慮し使い分ける】

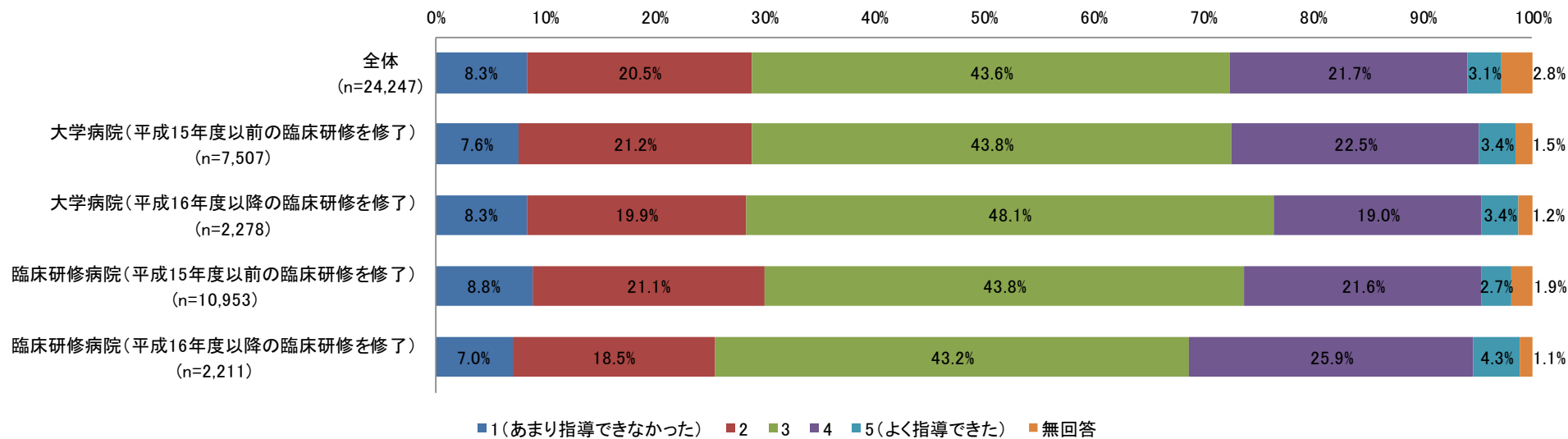


【AMR予防を意識した抗生物質・抗菌薬の適正使用】



医療の持つ社会的側面を踏まえた指導

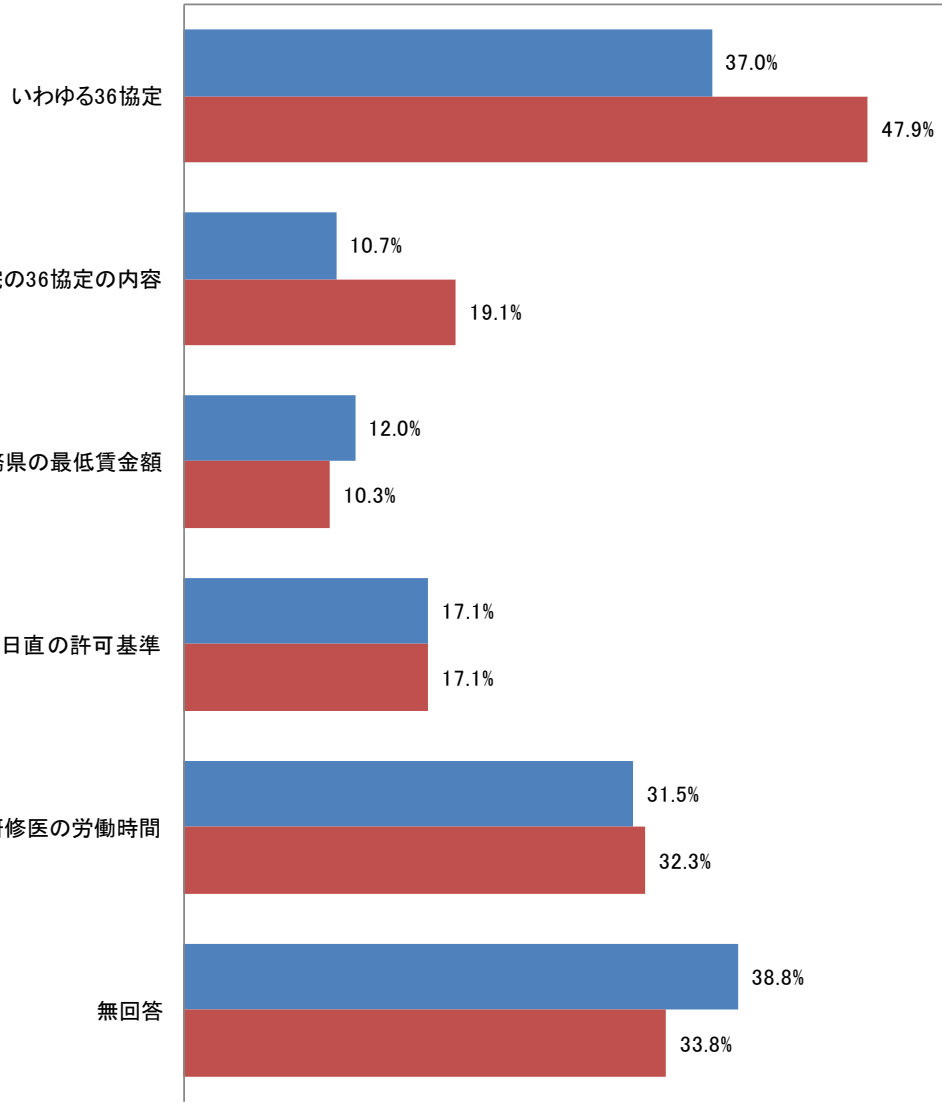
【費用対効果などを考慮した臨床】



回答者が指導を行った病院種別別の集計

労働基準法に関連して知っている内容（複数回答可）

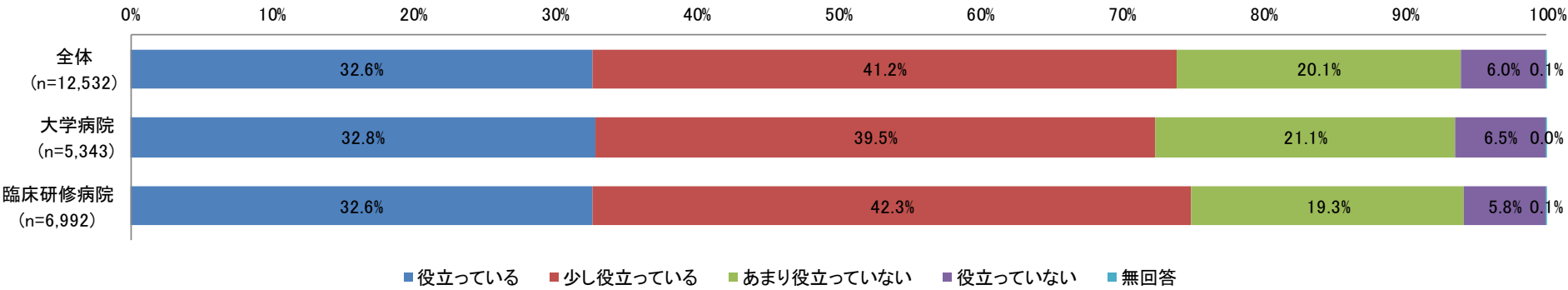
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



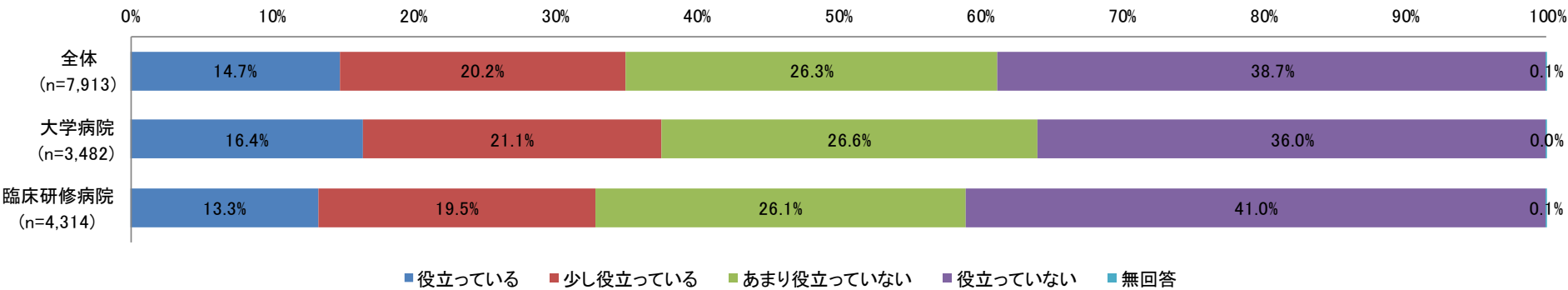
■ 大学病院(n=10,064) ■ 臨床研修病院(n=13,736)

回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が 診療を行う上で役立っているか（修得機会があった者のみ回答）

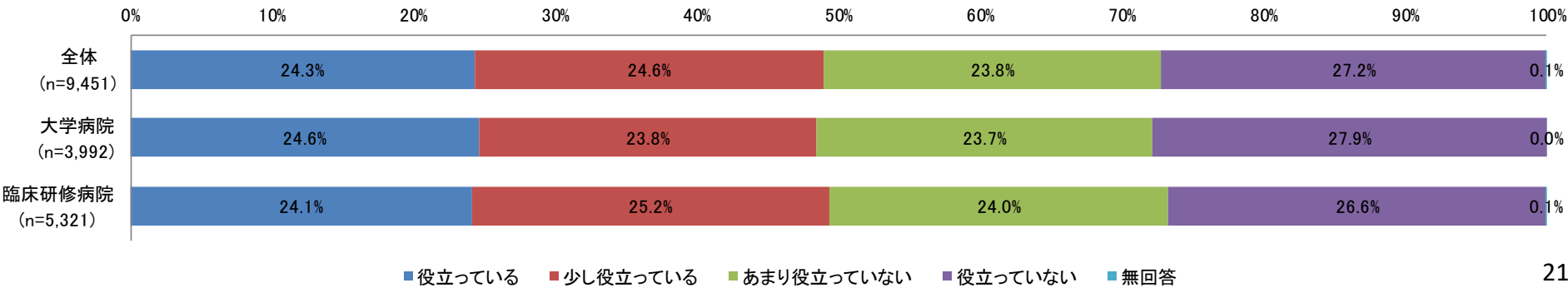
【皮膚の所見を記述できる】



【眼底所見により、動脈硬化の有無を判定できる】

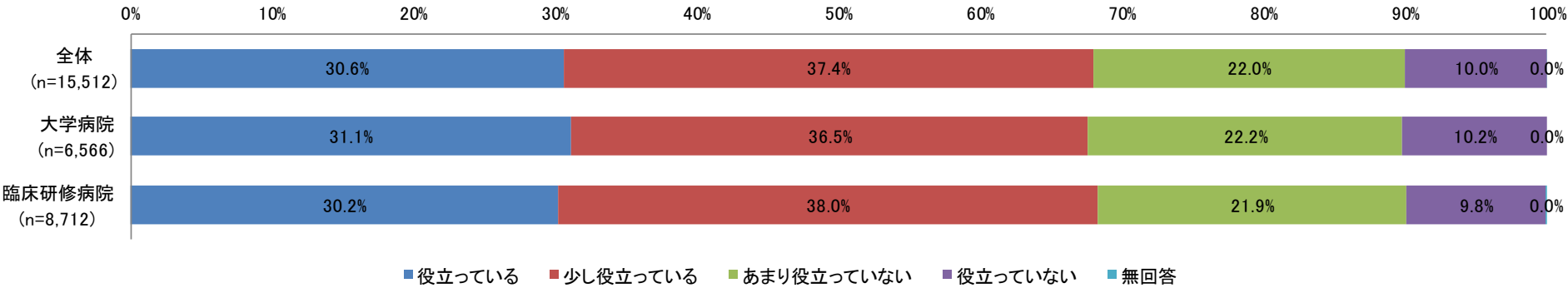


【鼓膜を観察し、異常の有無を判定できる】

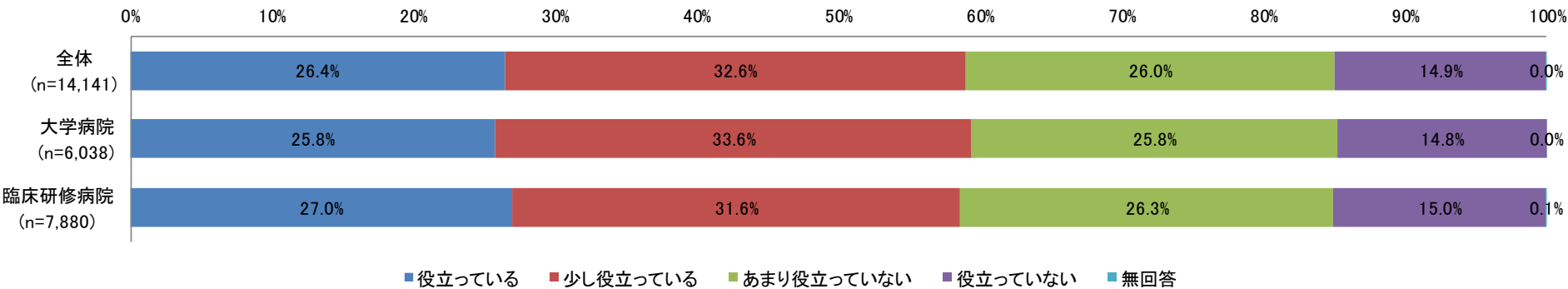


回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が 診療を行う上で役立っているか（修得機会があった者のみ回答）

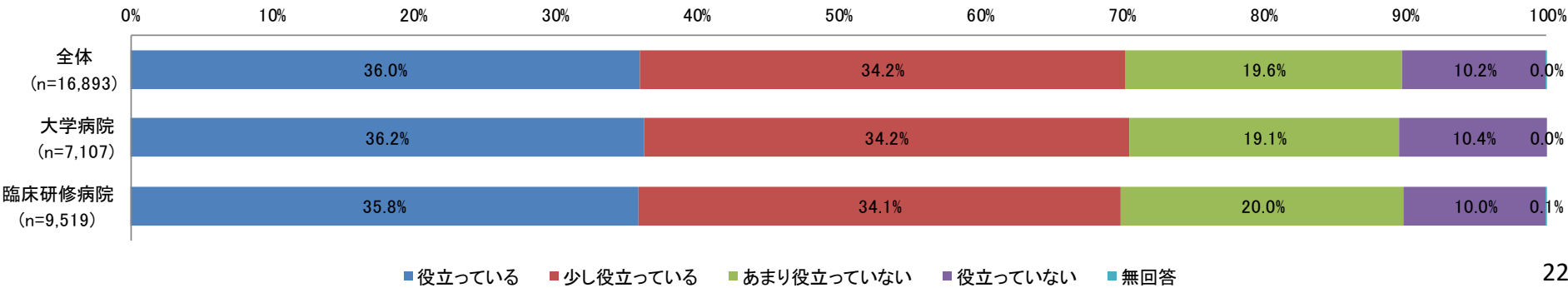
【甲状腺の触診ができる】



【心尖拍動を触知できる】

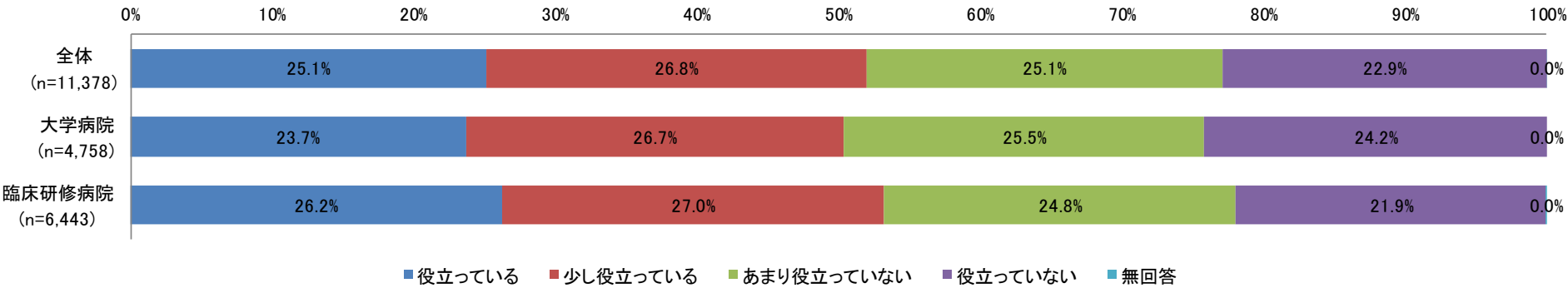


【心雑音を聴取し、記載できる】

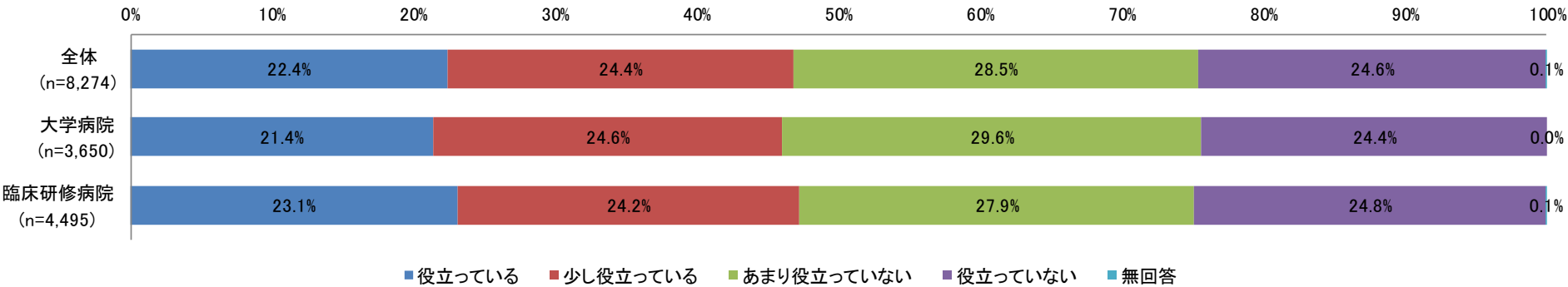


回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が 診療を行う上で役立っているか（修得機会があった者のみ回答）

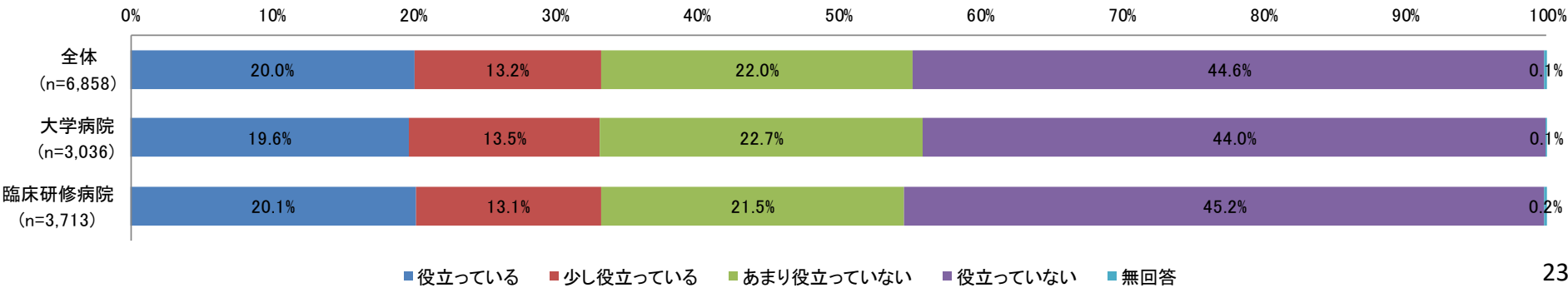
【直腸診で前立腺の異常を判断できる】



【妊娠の初期兆候を把握できる】

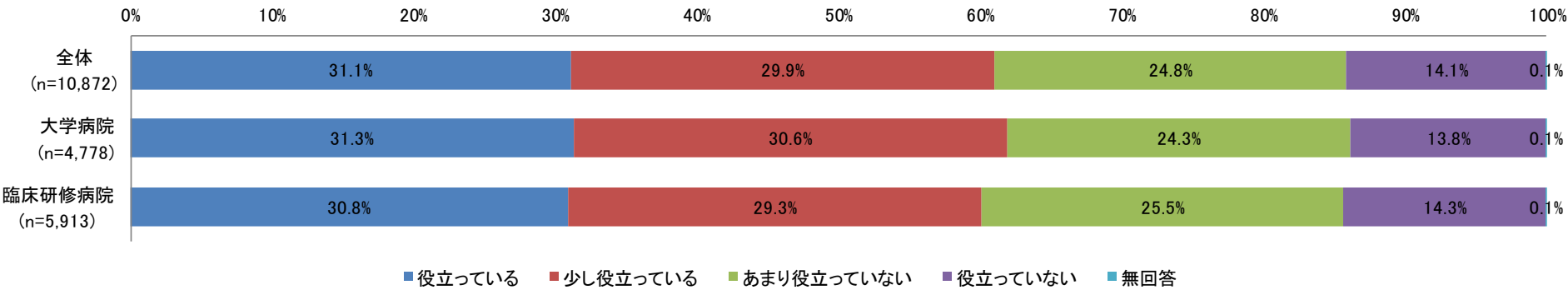


【双手診により女性附属器の腫脹を触知できる】

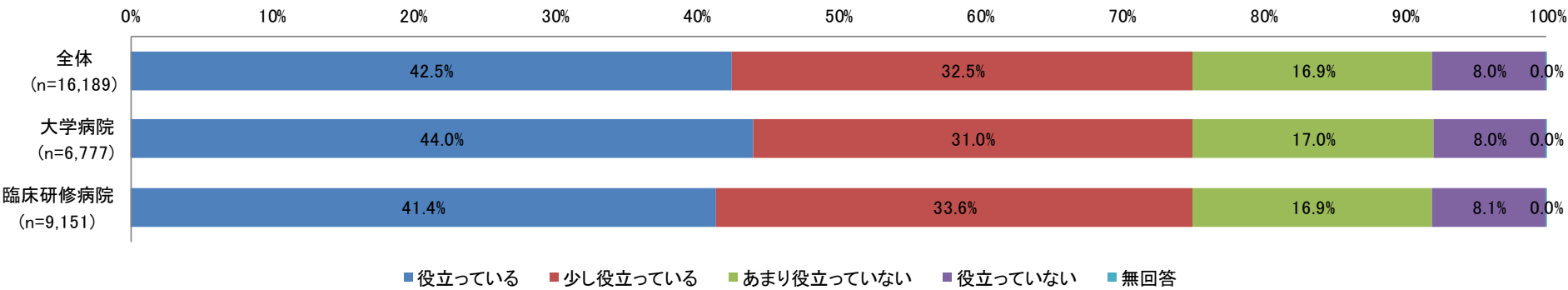


回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が 診療を行う上で役立っているか（修得機会があった者のみ回答）

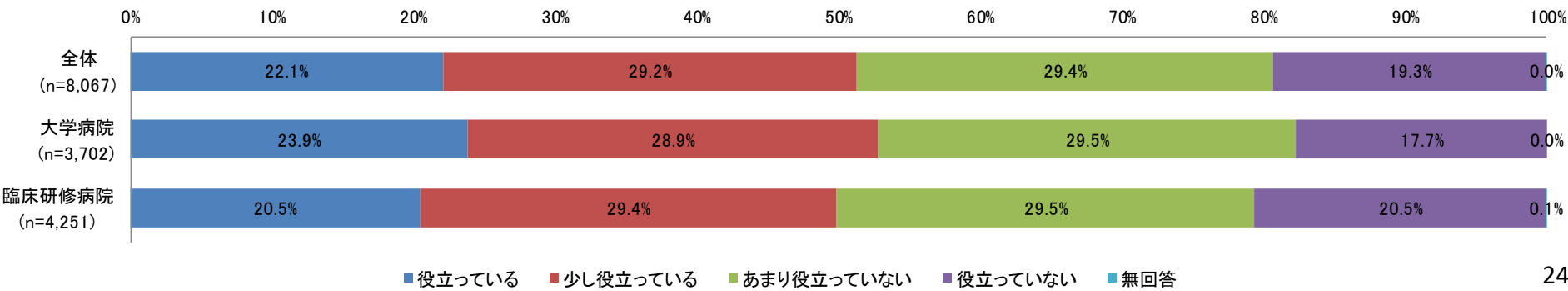
【関節可動域を検査できる】



【髄膜刺激所見をとることができる】

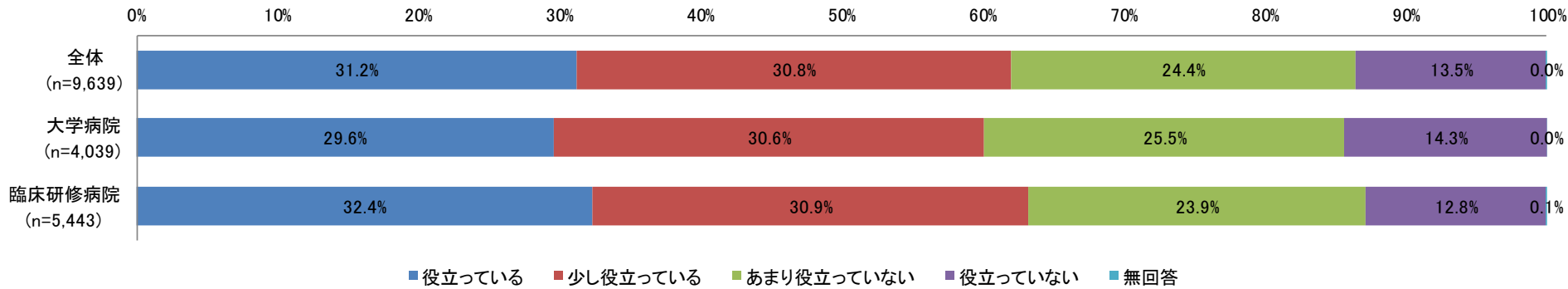


【うつ病の診断基準を述べることができる】

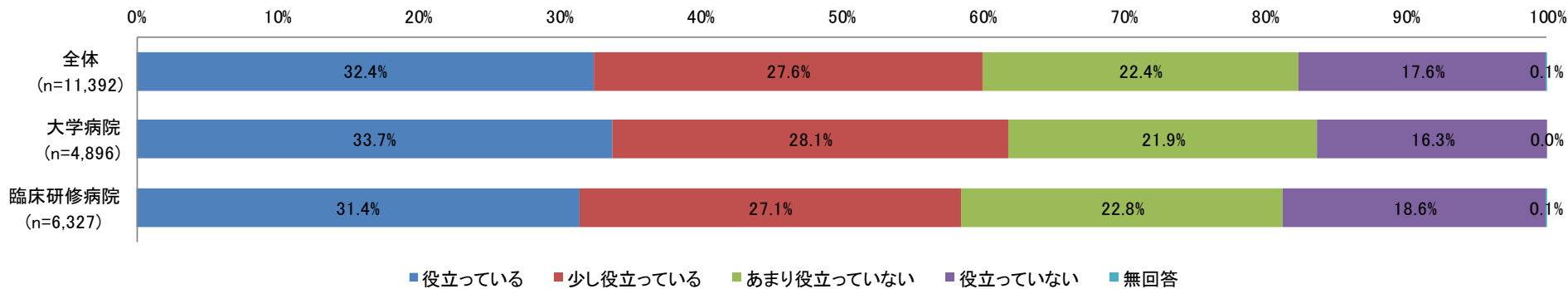


回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が 診療を行う上で役立っているか（修得機会があった者のみ回答）

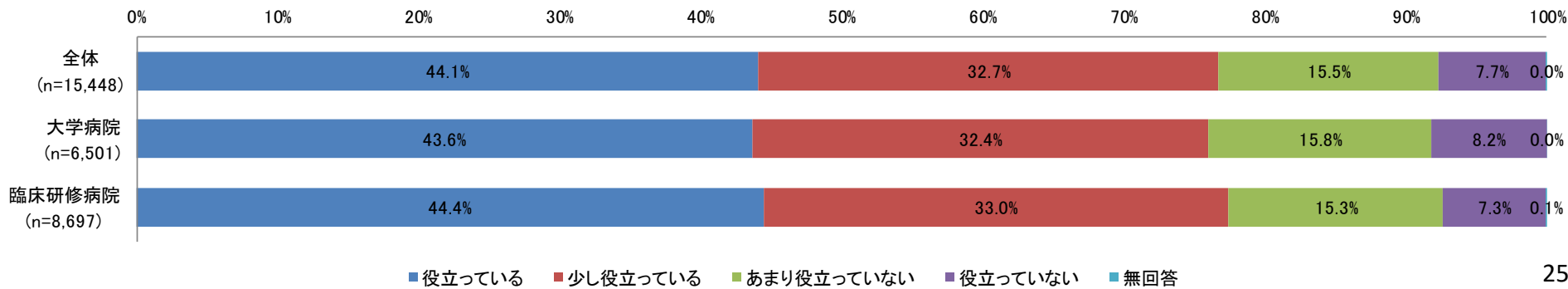
【骨折、脱臼、捻挫の鑑別診断ができる】



【尿沈査の鏡検で、赤血球、白血球、円柱を区別できる】

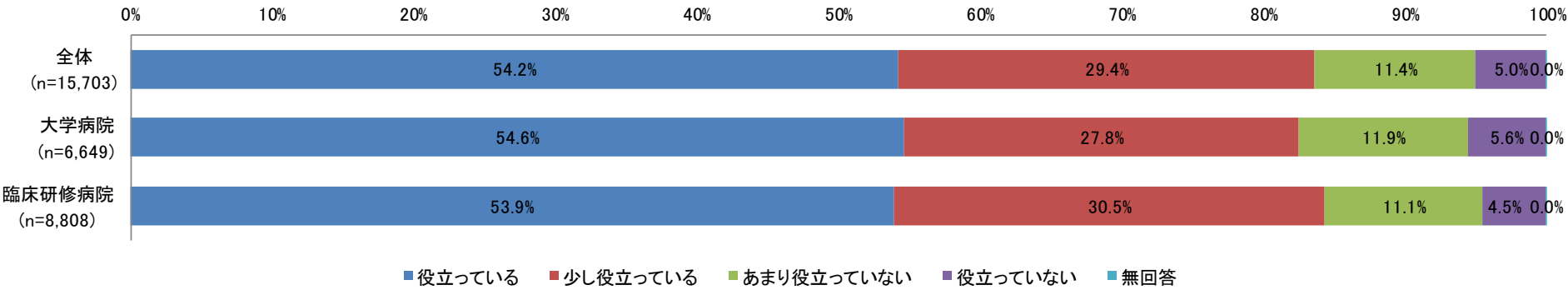


【便の潜血反応を実施し、結果を解釈することができる】

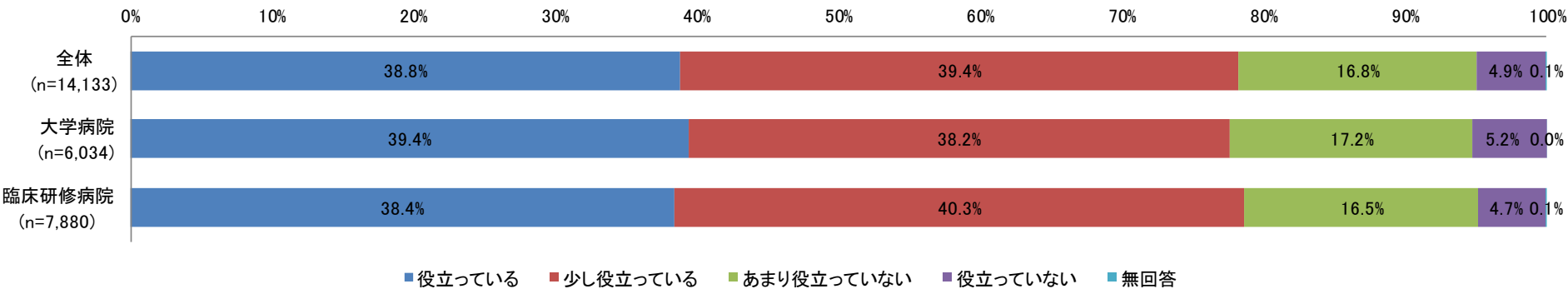


回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が 診療を行う上で役立っているか（修得機会があった者のみ回答）

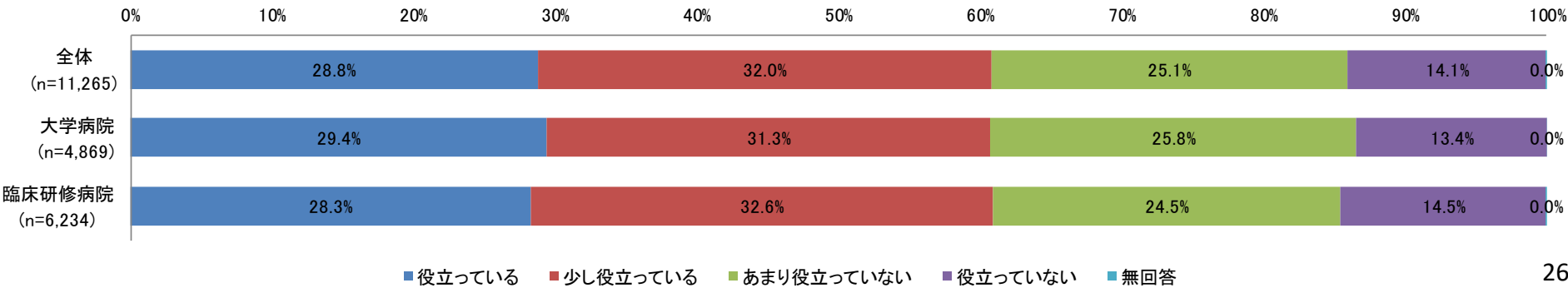
【血液免疫血清学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる】



【内分泌学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる】

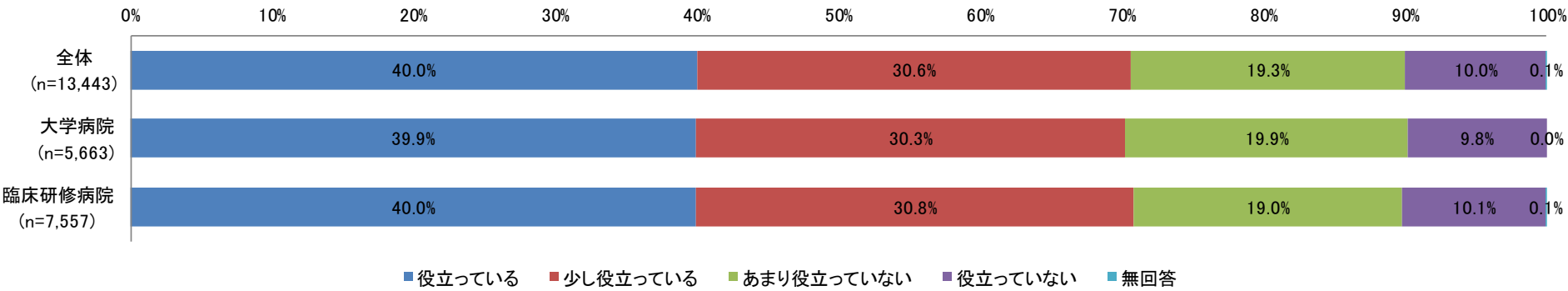


【グラム染色を行い、結果の解釈ができる】

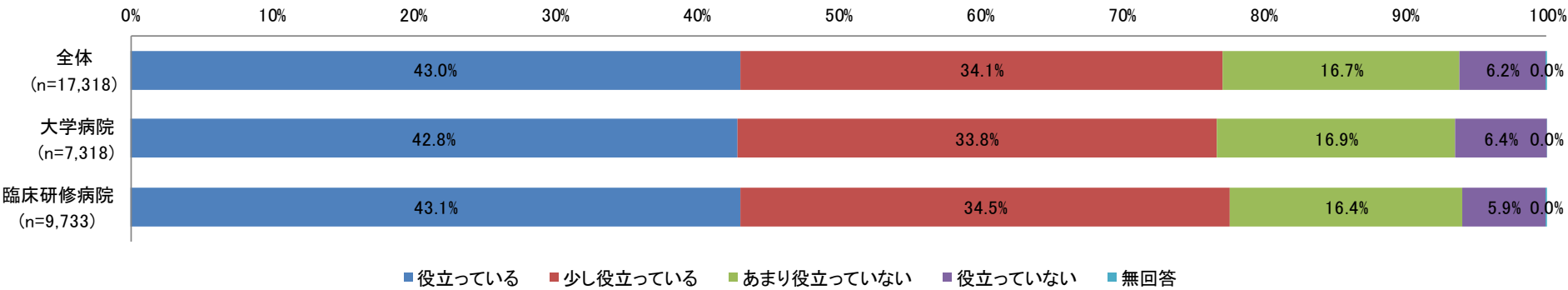


回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が 診療を行う上で役立っているか（修得機会があった者のみ回答）

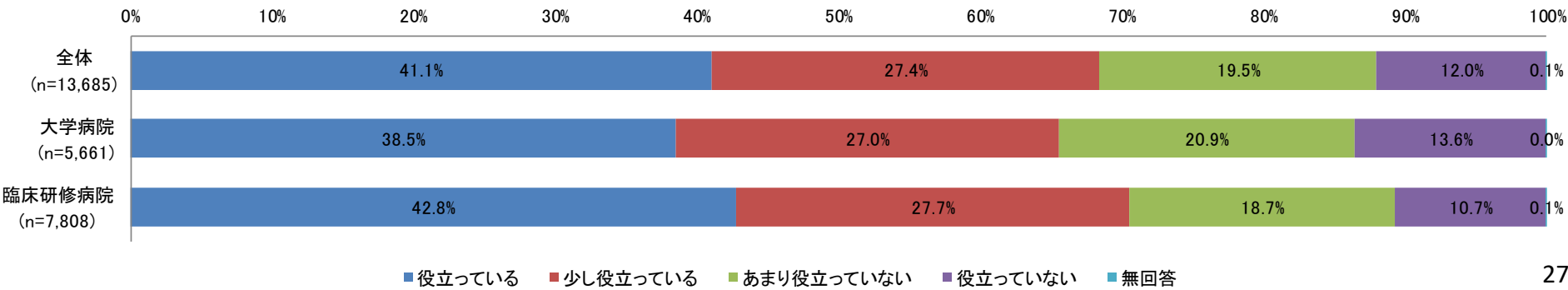
【髄液検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる】



【心電図検査を自ら実施し、不整脈の鑑別診断ができる】

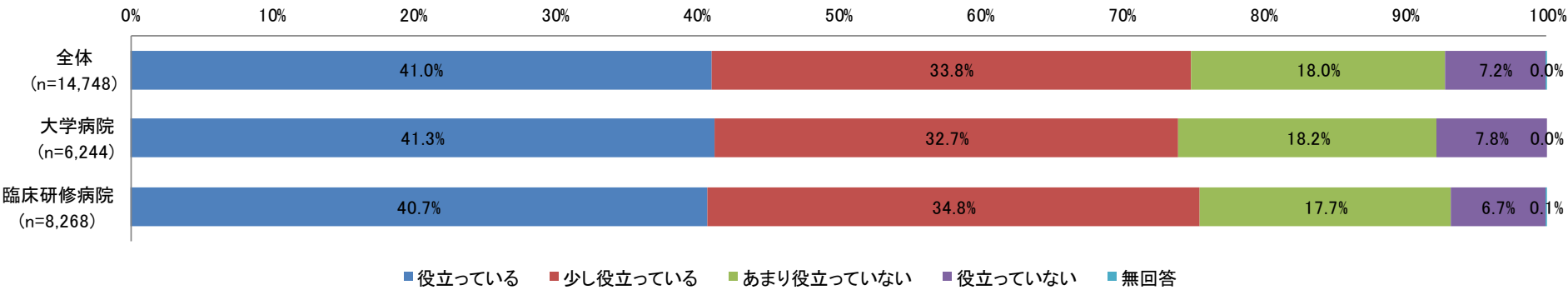


【超音波検査を自ら実施し、胆管拡張の判定ができる】

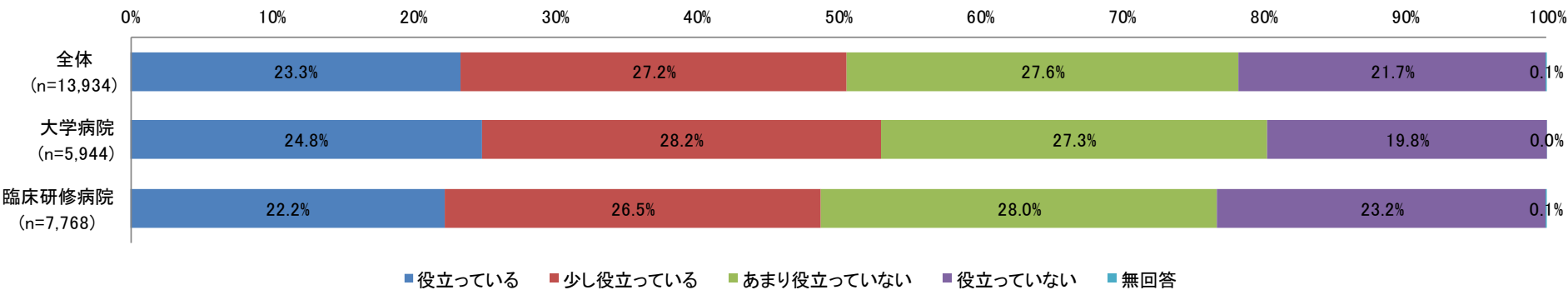


回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が 診療を行う上で役立っているか（修得機会があった者のみ回答）

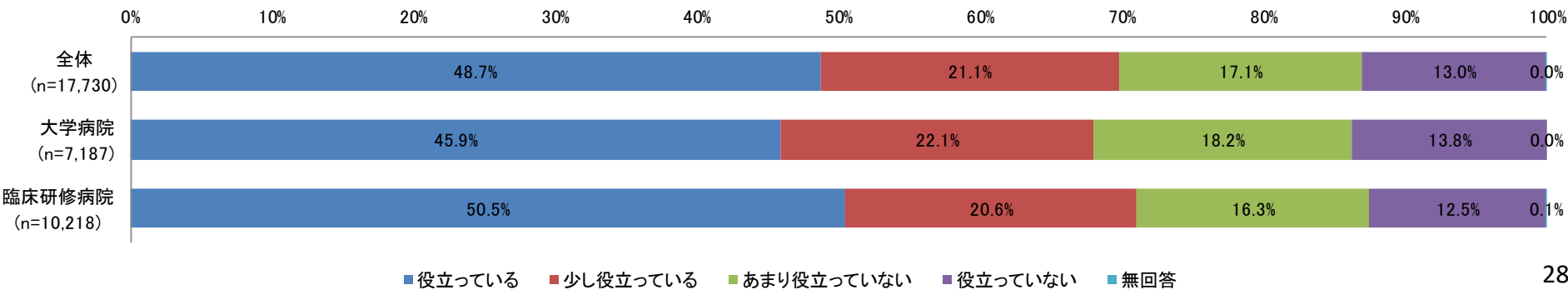
【胸部CTで肺癌による所見を見出すことができる】



【血液型クロスマッチを行い、結果の判定ができる】

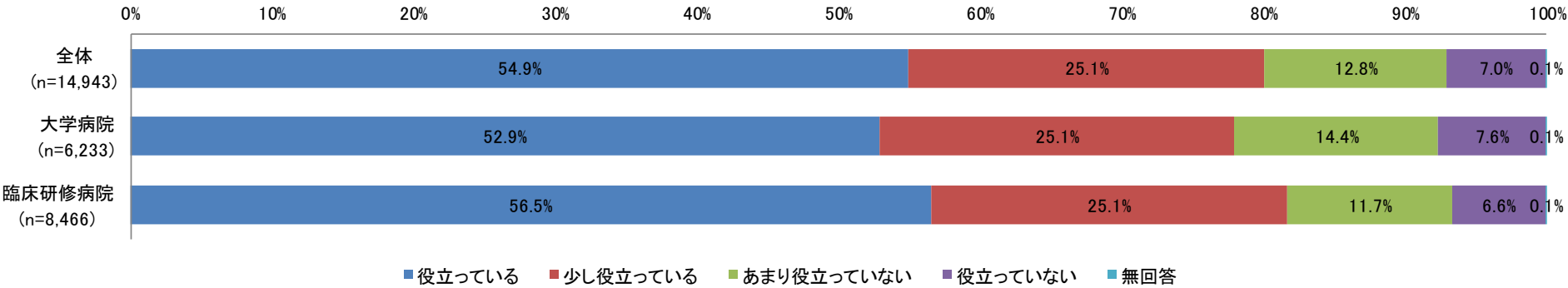


【腰椎穿刺を実施できる】

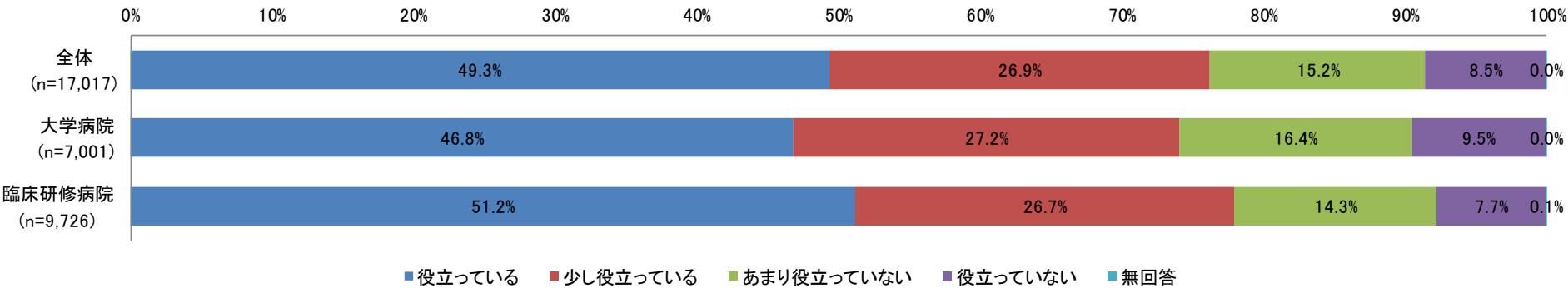


回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が 診療を行う上で役立っているか（修得機会があった者のみ回答）

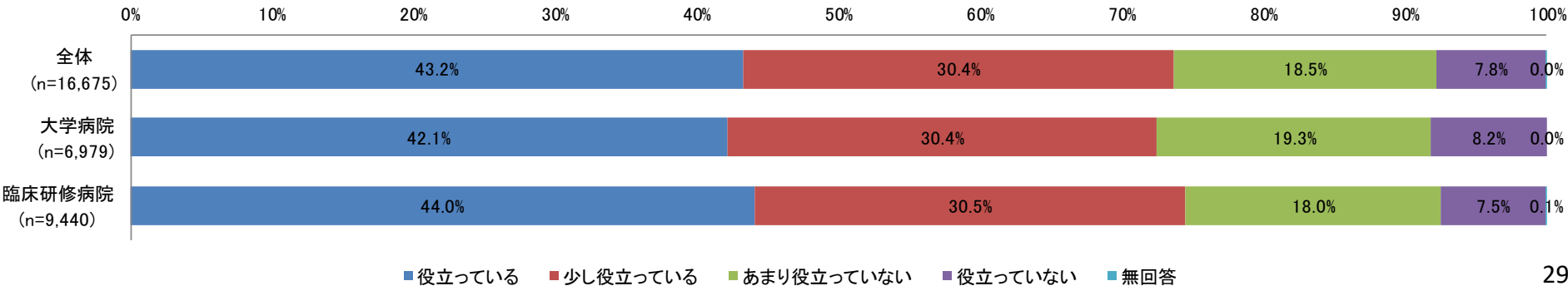
【術後起こりうる合併症及び異常に対して基本的な対処ができる】



【レスピレーターを装着し、調節できる】

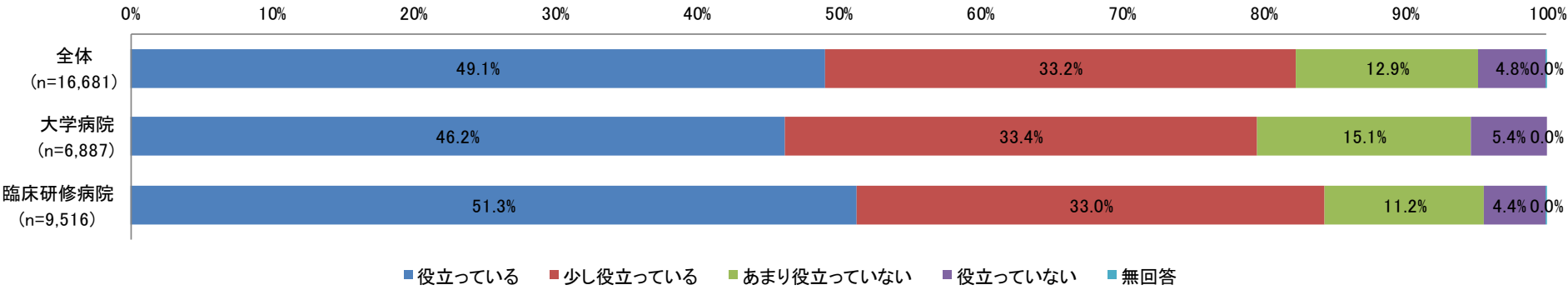


【電氣的除細動の適応を挙げ、実施できる】

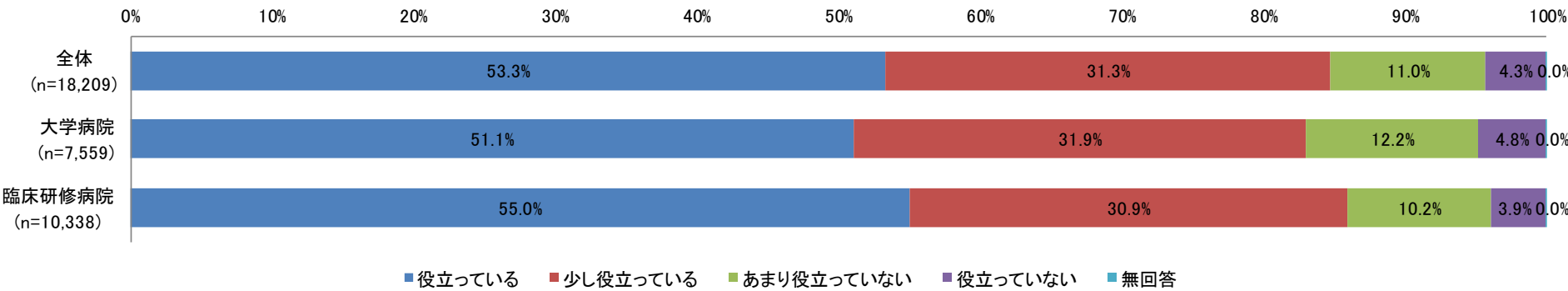


回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が 診療を行う上で役立っているか（修得機会があった者のみ回答）

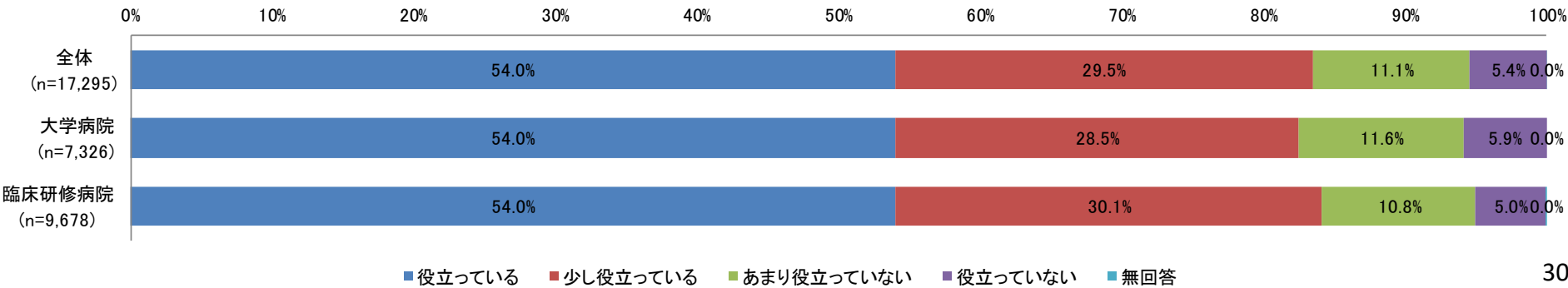
【救急患者の重症度および緊急度を判断できる】



【ショックの診断と治療ができる】

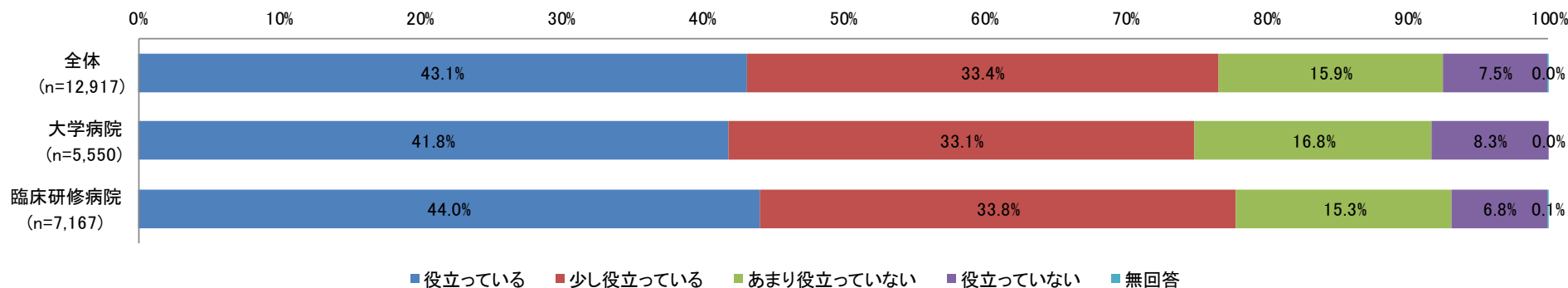


【末期患者の家族に病気を説明し、家族の心理的不安を受け止めることができる】

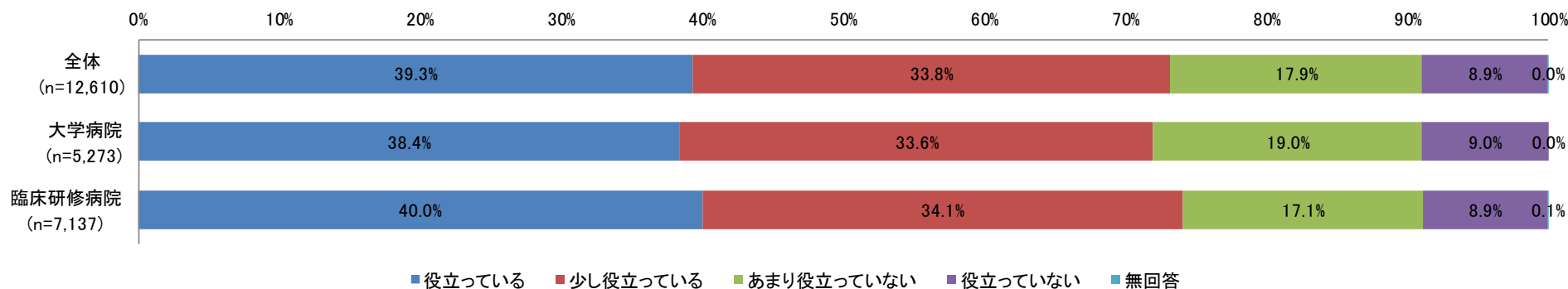


回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が 診療を行う上で役立っているか（修得機会があった者のみ回答）

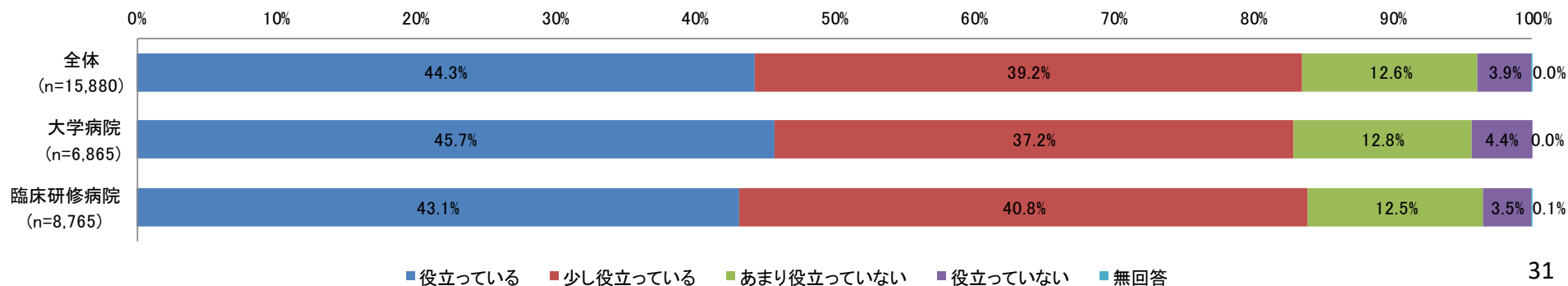
【在宅医療を希望する末期患者のために、環境整備を指導できる】



【緩和ケア（WHO方式がん疼痛治療法を含む）のチーム医療に参加できる】

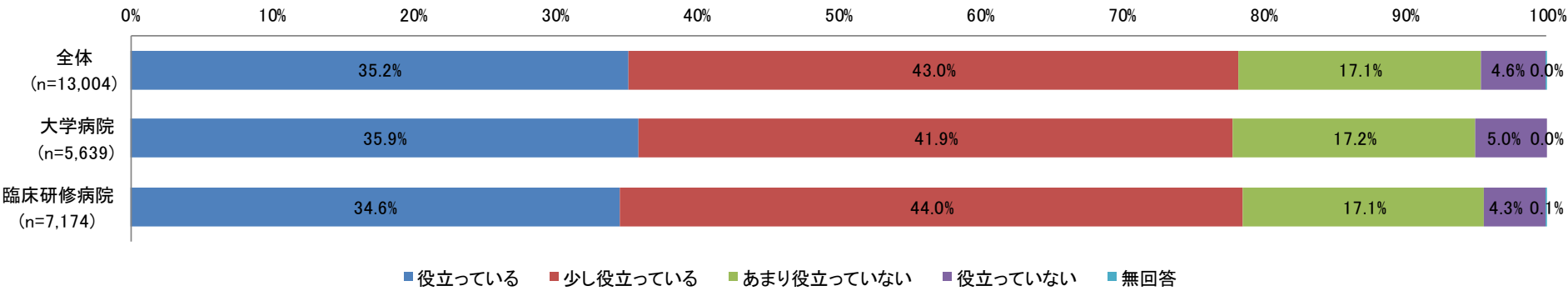


【患者の身体的側面だけでなく、心理社会的側面に配慮した治療ができる】

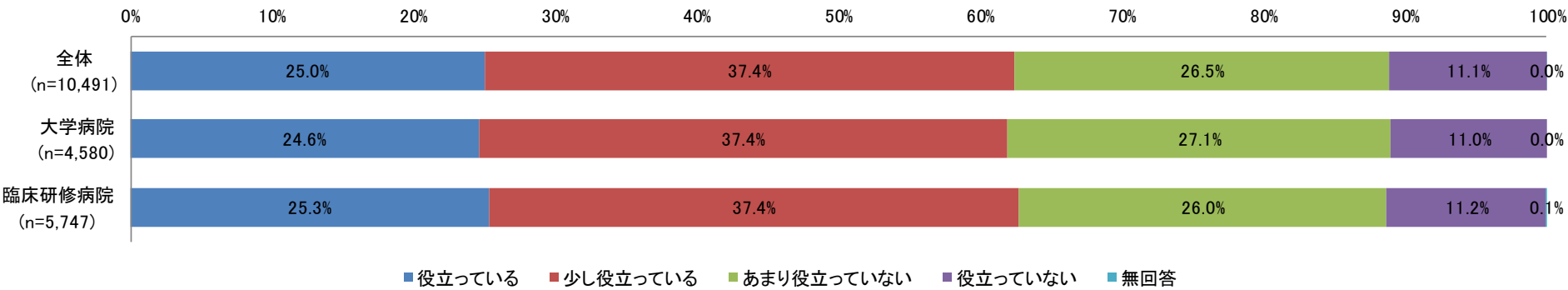


回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が 診療を行う上で役立っているか（修得機会があった者のみ回答）

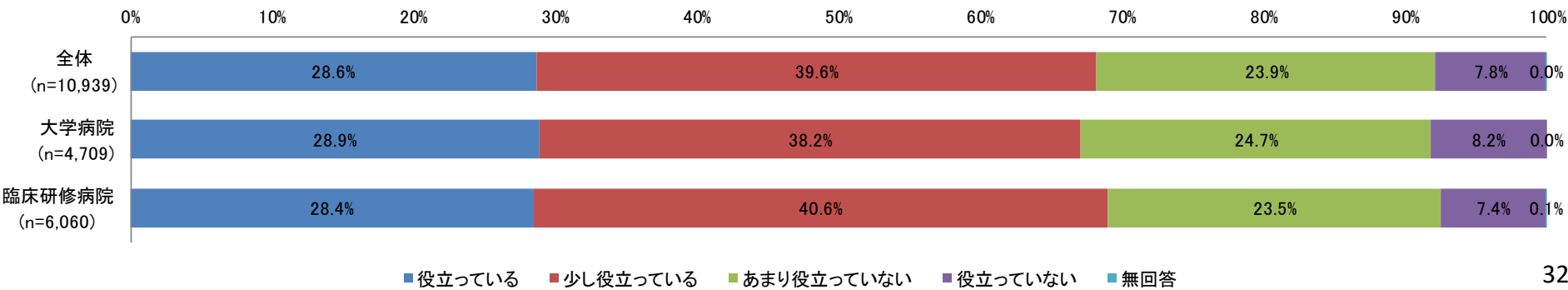
【医療費や社会福祉サービスに関する患者、家族の相談に応じ、解決法を指導できる】



【糖尿病患者への健康教育（健康相談および指導）ができる】

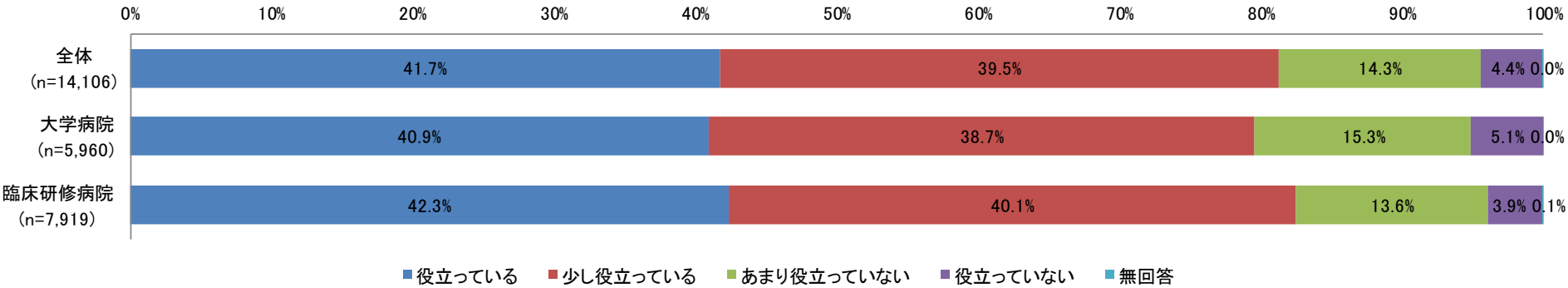


【日常よく行う処置、検査等の保険点数を知っている】

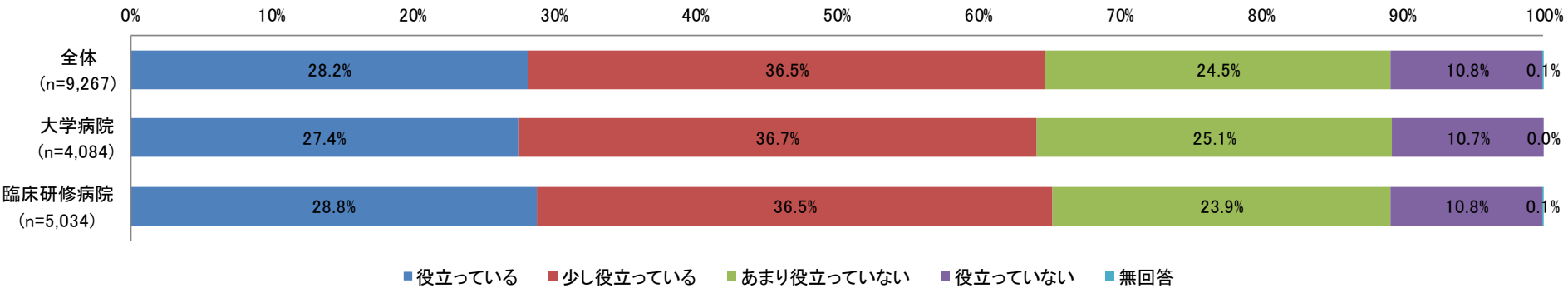


回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が 診療を行う上で役立っているか（修得機会があった者のみ回答）

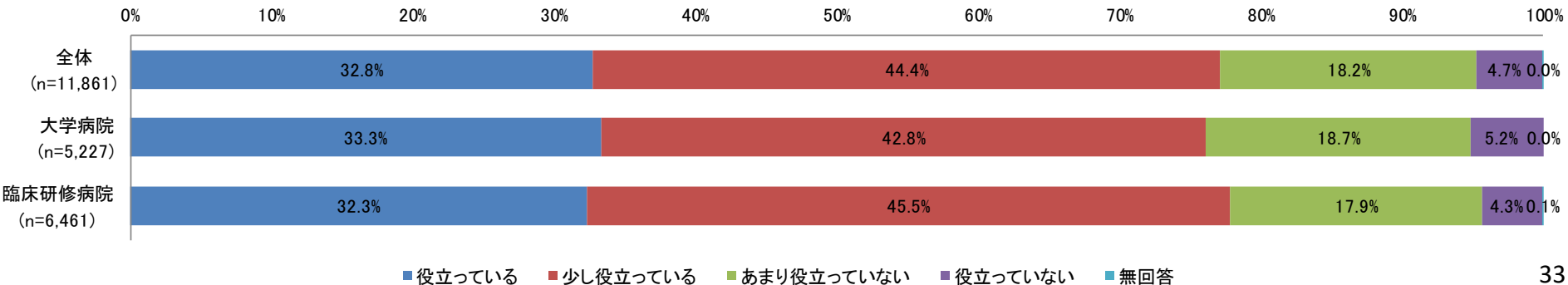
【ソーシャルワーカーの役割を理解し、協同して患者ケアを行える】



【禁煙指導ができる】

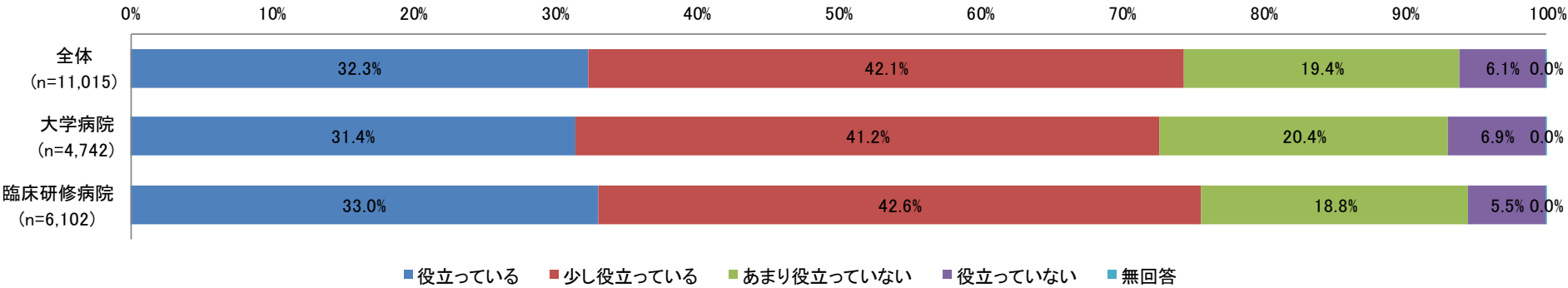


【患者の知識や関心のレベルに応じた健康教育ができる】

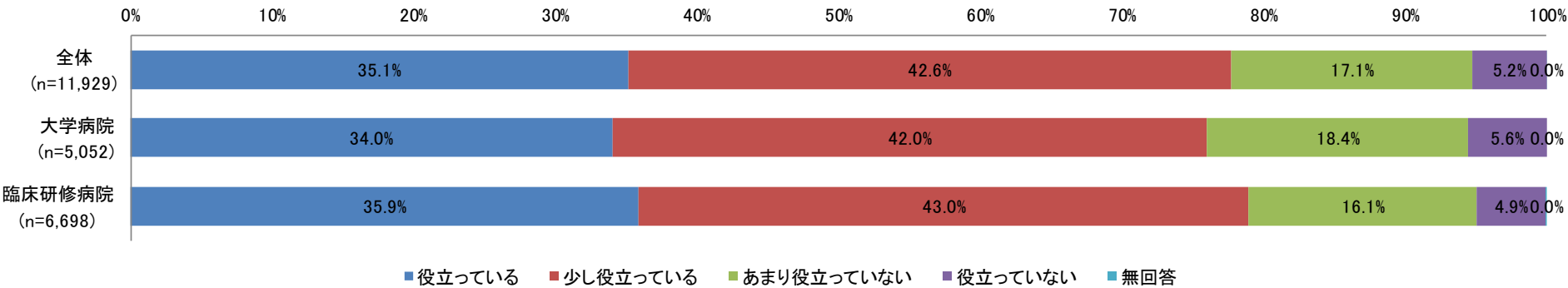


回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が 診療を行う上で役立っているか（修得機会があった者のみ回答）

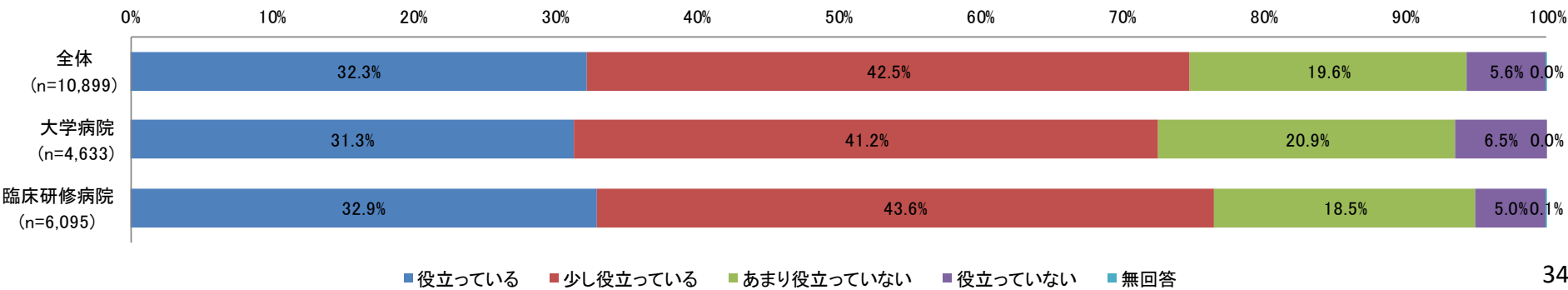
【在宅医療の適応の判断ができる】



【地域の医療資源を活用し、入院患者の退院後も継続性のある医療を提供できるよう調整することができる】

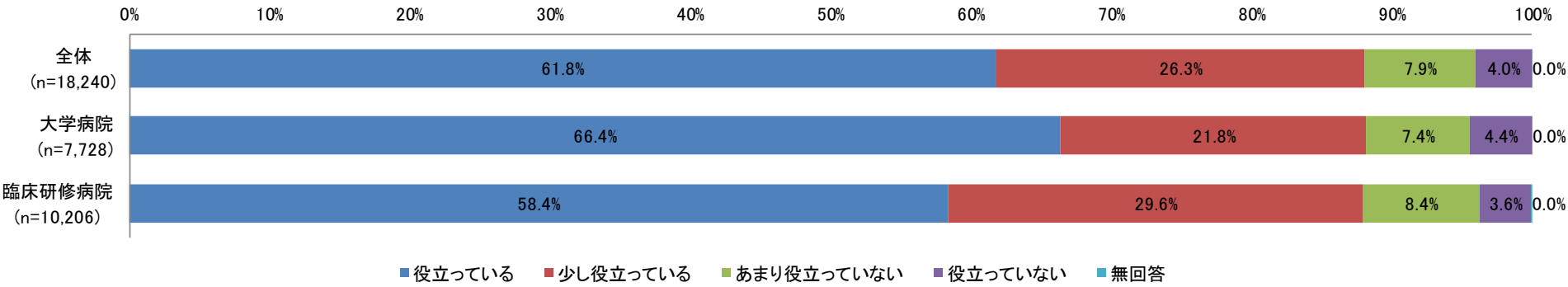


【社会福祉施設等の役割について理解し、連携をとることができる】

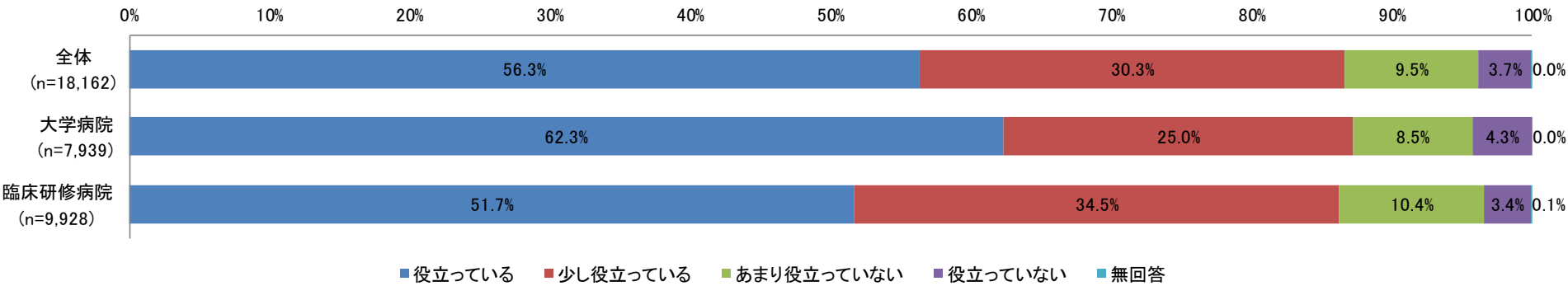


回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が 診療を行う上で役立っているか（修得機会があった者のみ回答）

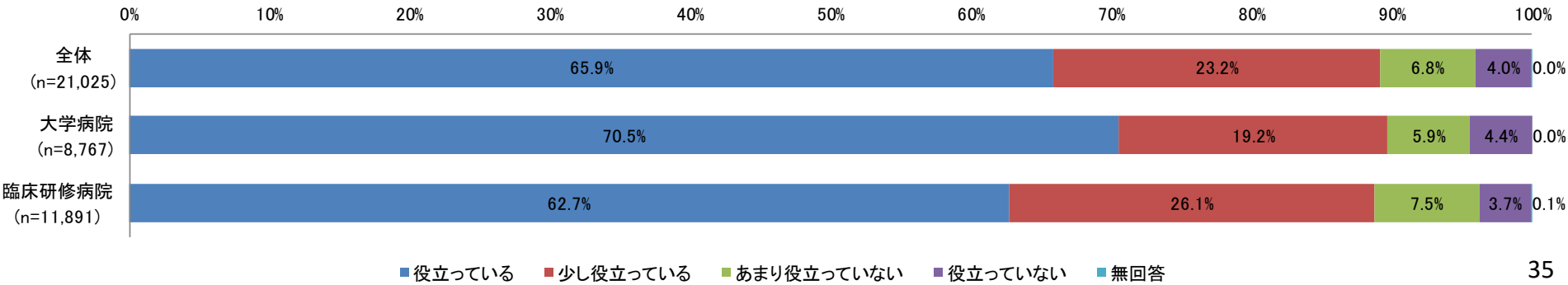
【診療上湧き上がってきた疑問点について、Medlineで文献検索ができる】



【研究デザインを理解して、論文を読むことができる】

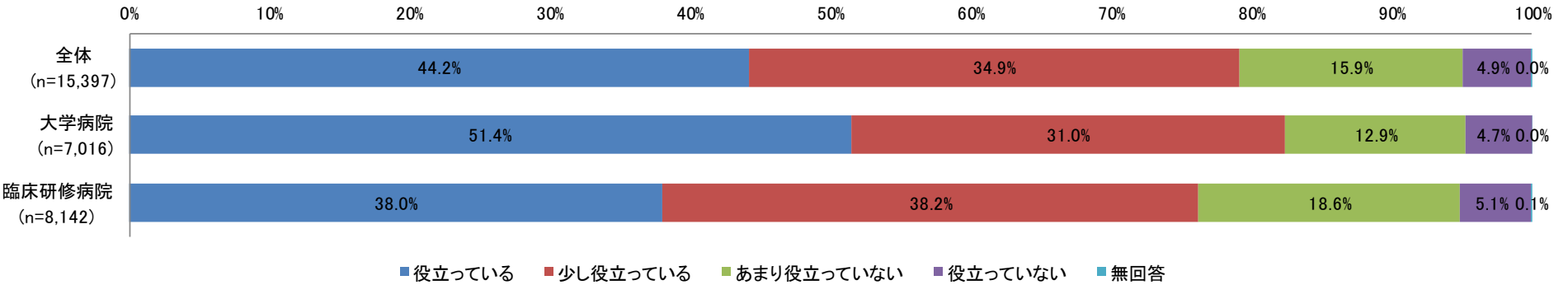


【学会で症例報告ができる】

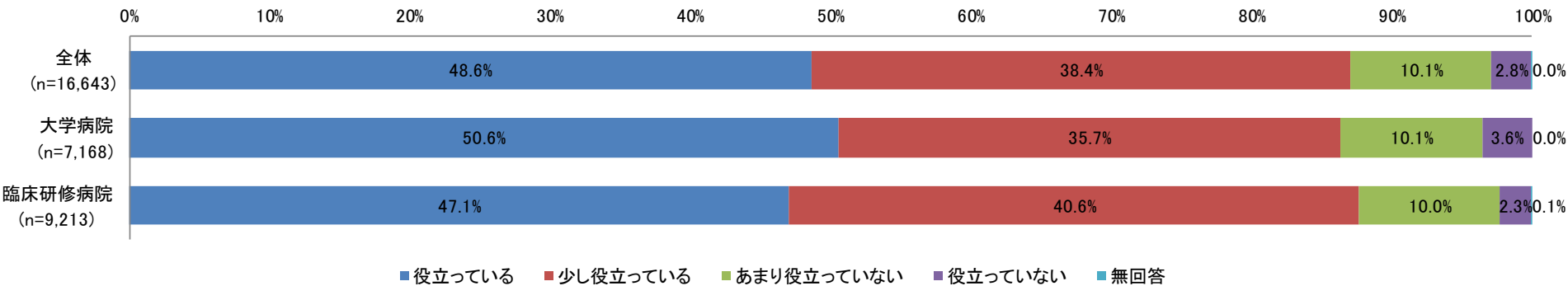


回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が 診療を行う上で役立っているか（修得機会があった者のみ回答）

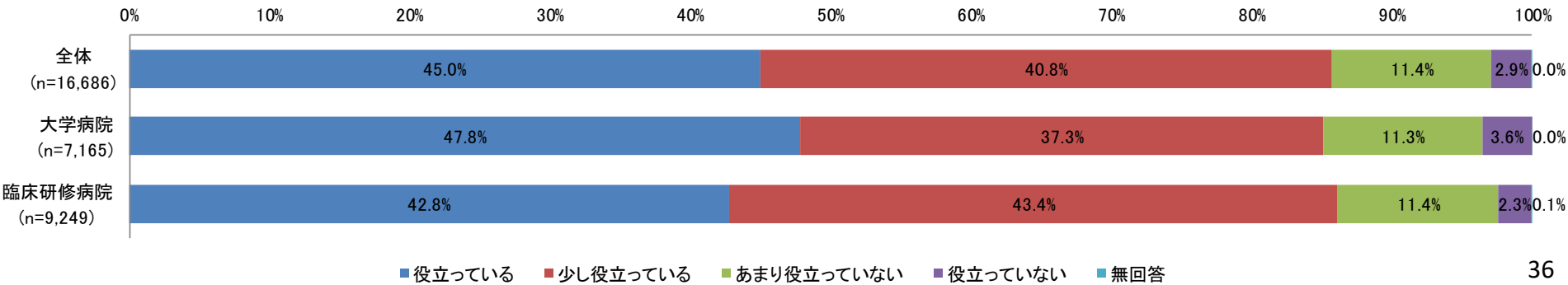
【データの種類に応じて適切な統計学的解析ができる】



【医療上の安全確認の基本的な考え方を理解し、実施できる】

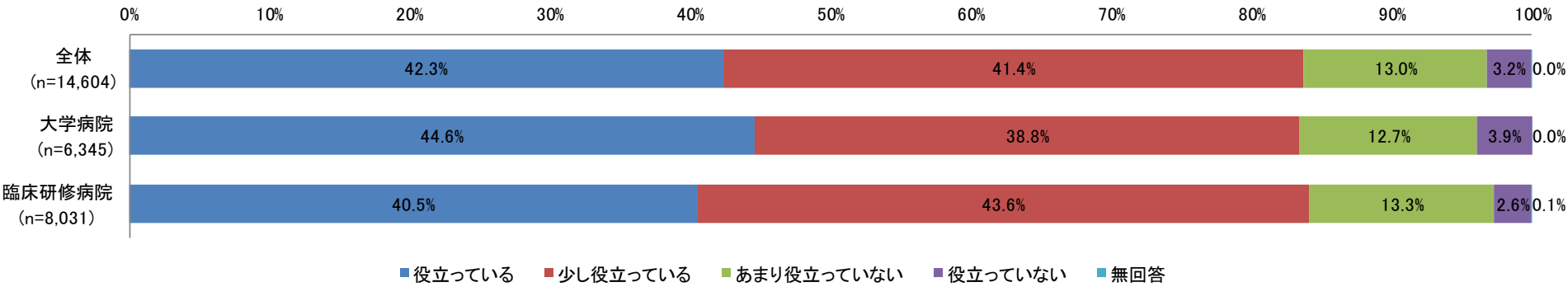


【医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる】

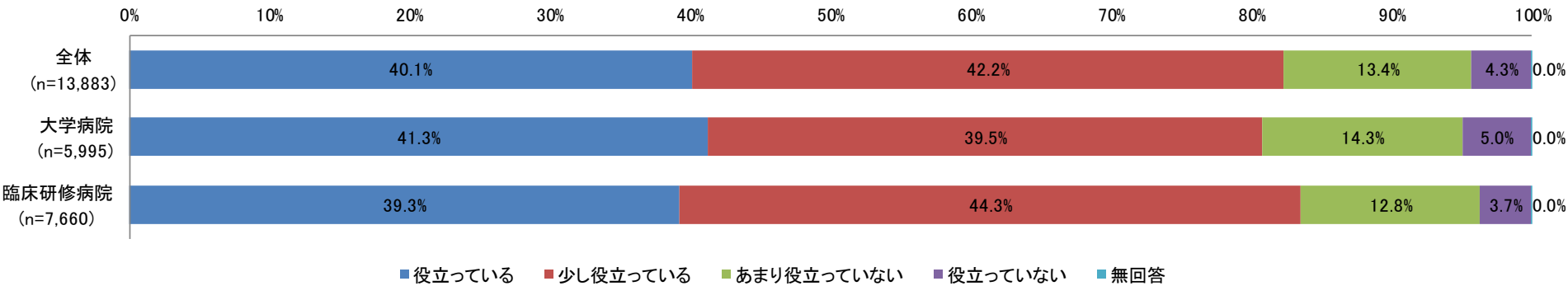


回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が 診療を行う上で役立っているか（修得機会があった者のみ回答）

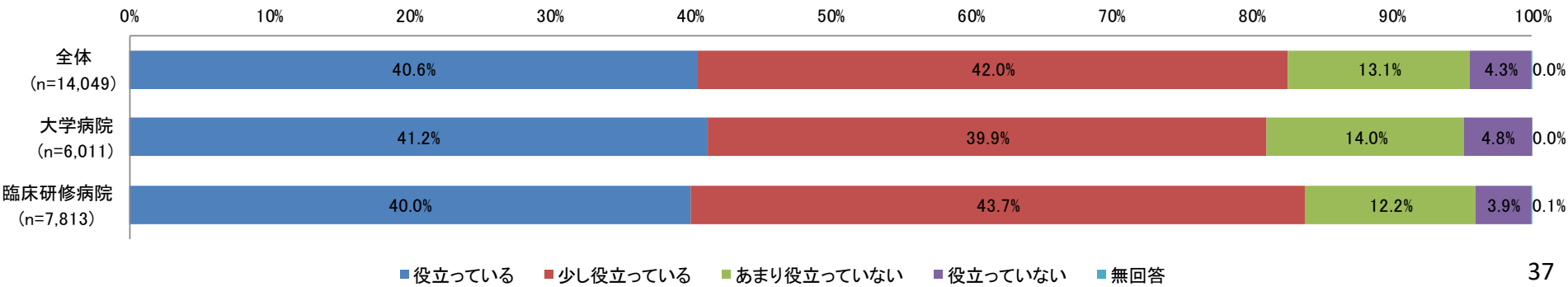
【性別の特性に配慮した病歴聴取等を行い、鑑別診断を行うことができる】



【高齢者の聴力・視力・認知面での障害の有無に配慮した、病歴聴取を行うことができる】

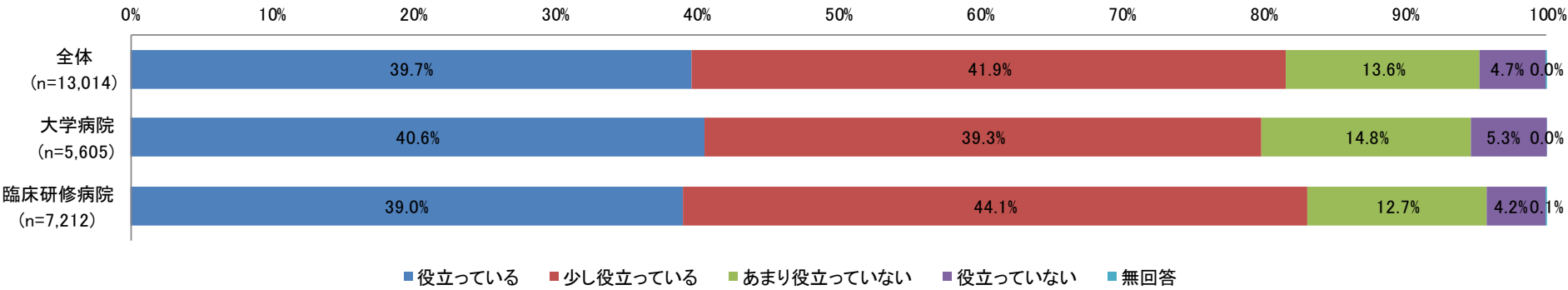


【高齢者の症状が非特異的、非典型的であることを理解して、身体所見をとることができる】

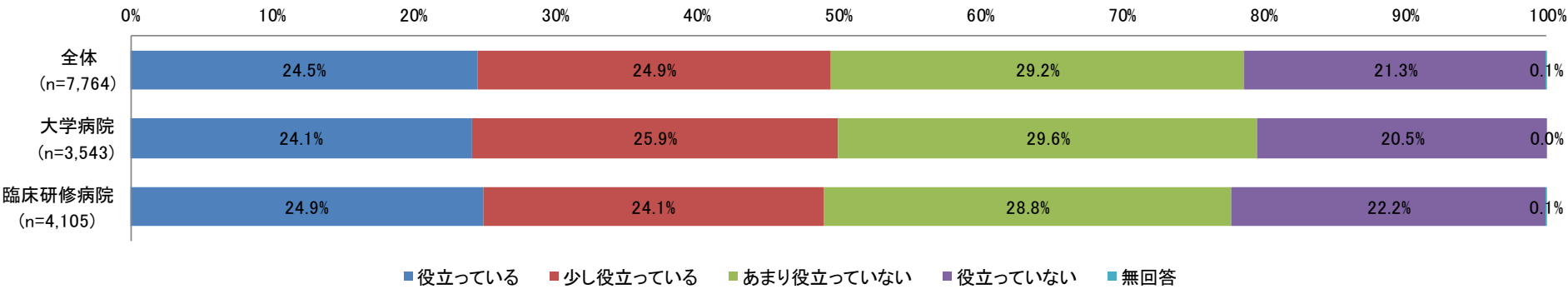


回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が 診療を行う上で役立っているか（修得機会があった者のみ回答）

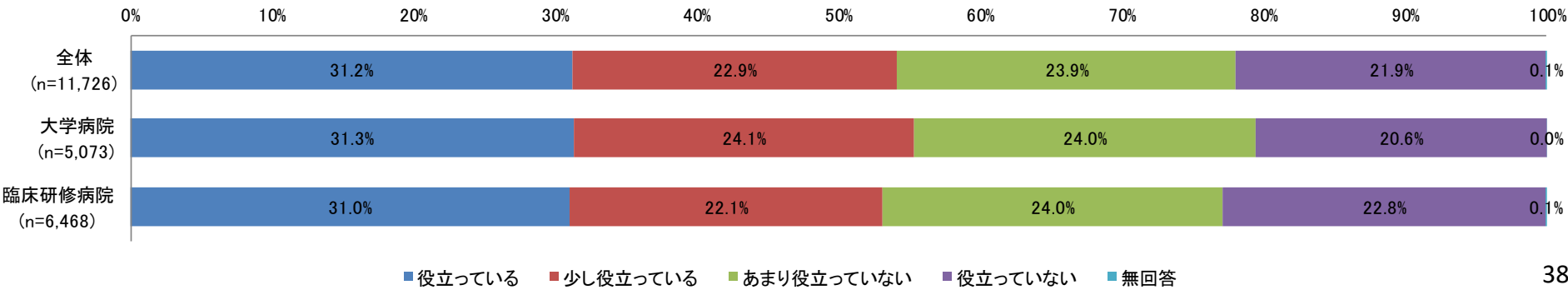
【高齢者の身体的、精神的、社会的活動性をできるだけ良好に維持するような治療法を提示することができる】



【小児の精神運動発達の異常を判断できる】

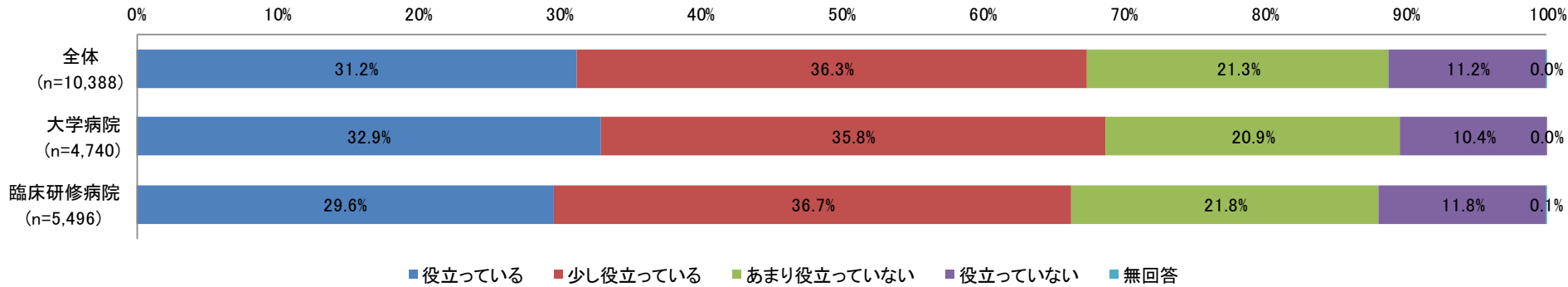


【小児の採血、点滴ができる】

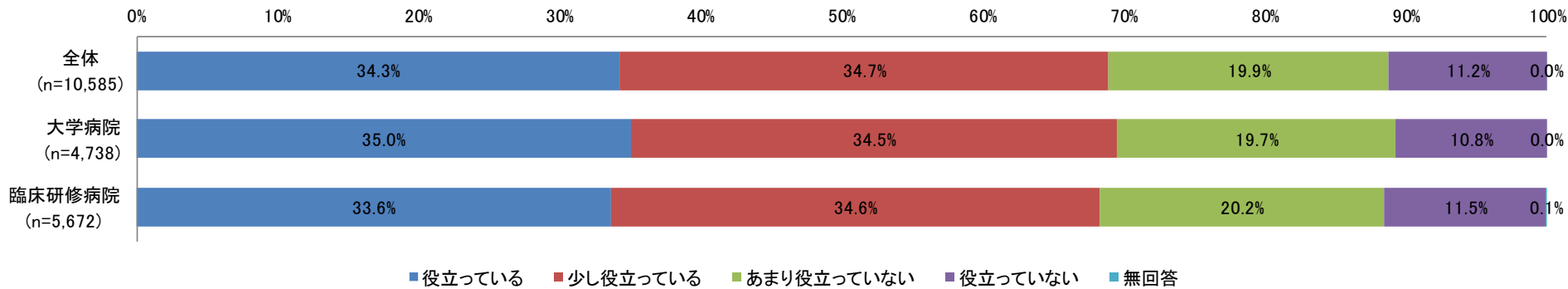


回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が 診療を行う上で役立っているか（修得機会があった者のみ回答）

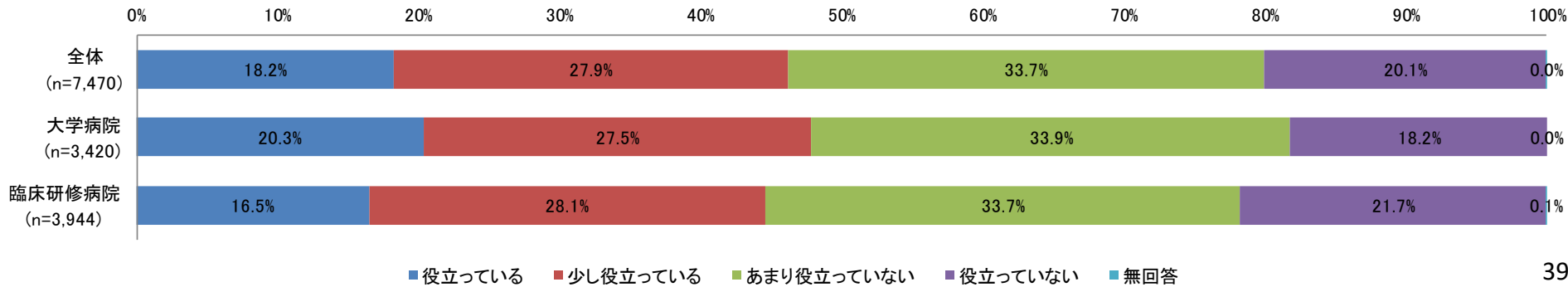
【患児の身体的苦痛のみならず、精神的ケアにも配慮できる】



【患児の年齢や理解度に応じた説明ができる】

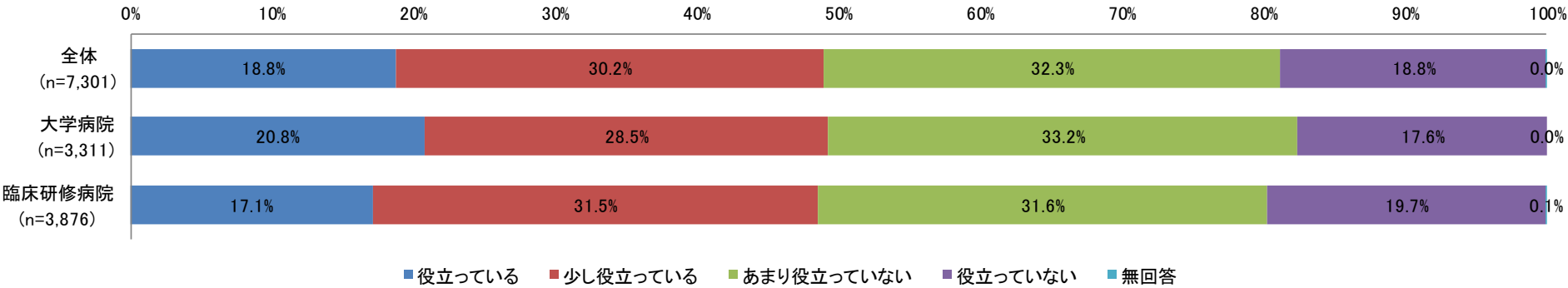


【代表的な精神科疾患について、診断および治療ができる】

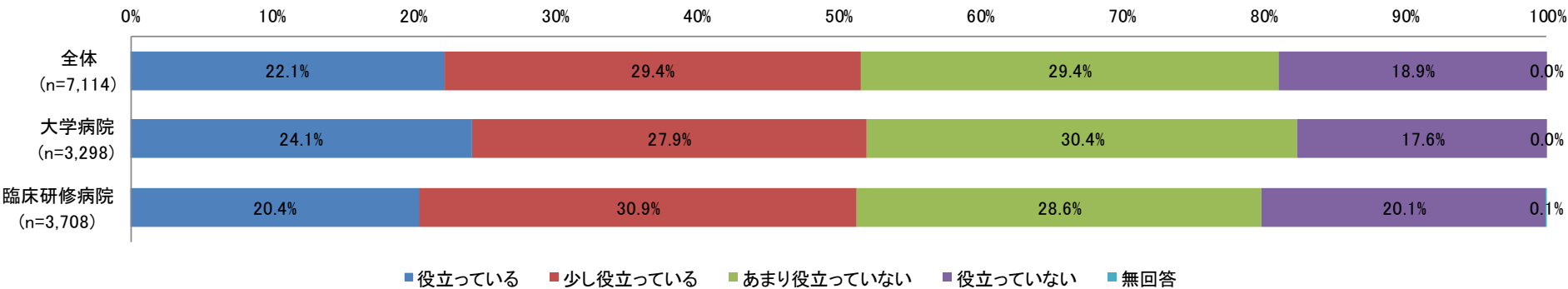


回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が 診療を行う上で役立っているか（修得機会があった者のみ回答）

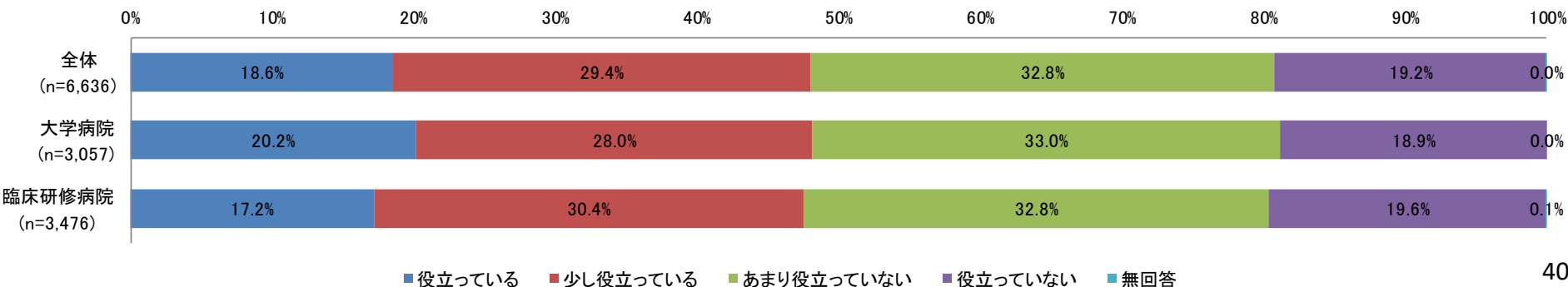
【精神科領域の薬物治療に伴うことの多い障害について理解し、適切な検査・処置ができる】



【精神科コ・メディカルスタッフ(PSW等)の業務を理解し、連携してケアを行うことができる】

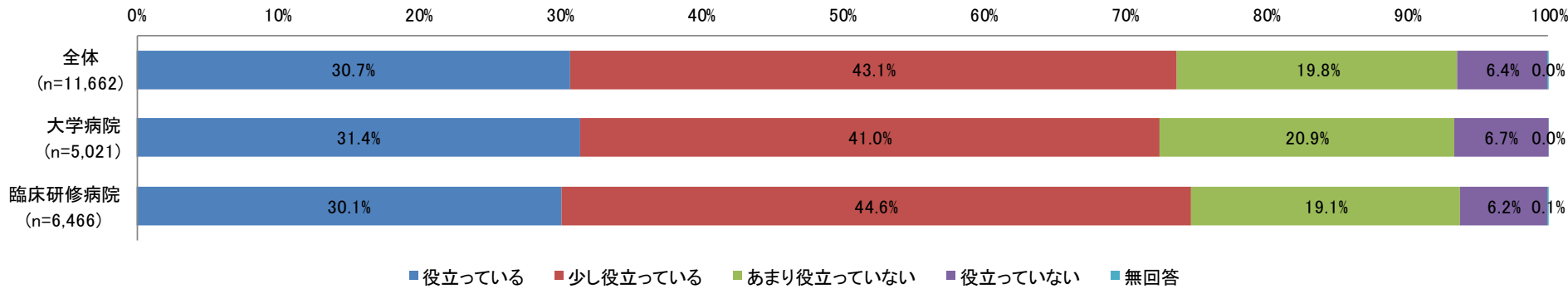


【地域の精神保健福祉に関する支援体制状況に関する知識を持ち、適切な連携をとることができる】

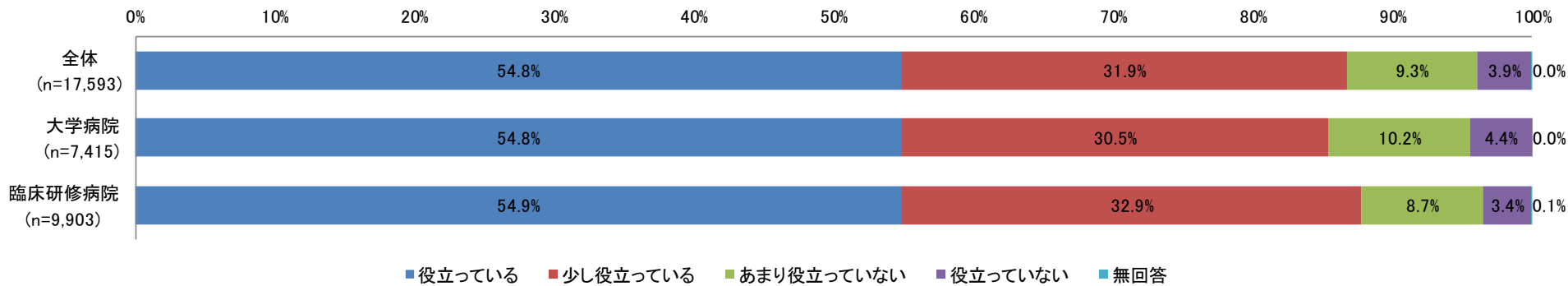


回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が 診療を行う上で役立っているか（修得機会があった者のみ回答）

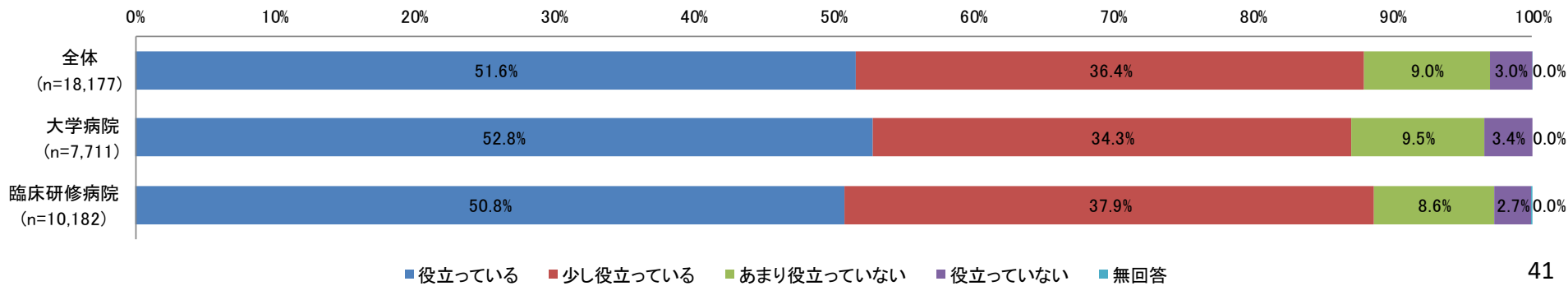
【自己決定できない患者での代理決定について判断できる】



【診療計画（診断、治療、患者・家族への説明を含む）を作成できる】

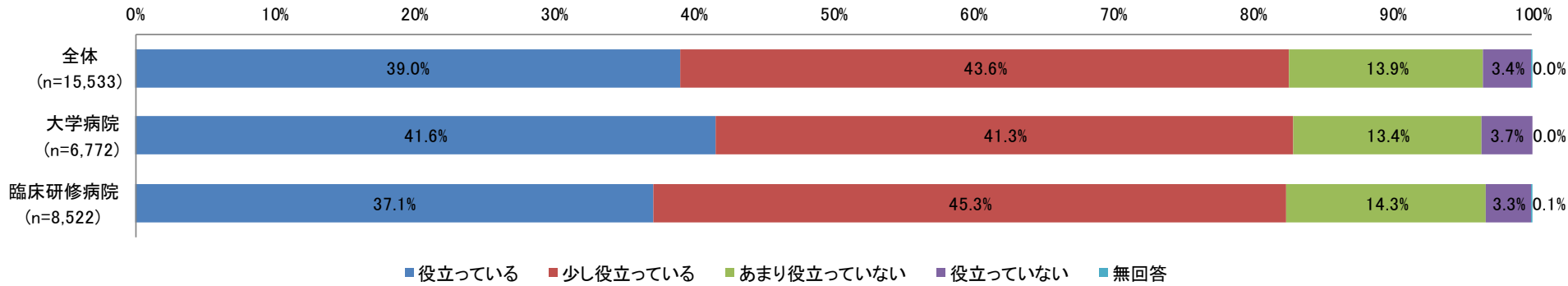


【基本的な臨床知識・技術について後輩を指導することができる】



回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が 診療を行う上で役立っているか（修得機会があった者のみ回答）

【医療人として必要な姿勢・態度について後輩のロールモデルになることができる】



実施した指導 「1（あまり指導できなかった）」または「2」と回答した割合（降順）

【大学病院(n=10,064)】

【臨床研修病院(n=13,736)】

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%

地域医療における診療能力

40.5%

初期救急における診療能力

25.7%

一般外来における診療能力

24.2%

科学的探究

21.7%

社会における医療の実践

20.5%

生涯にわたってともに学ぶ姿勢

14.5%

病棟における診療能力

13.2%

医学・医療における倫理性

12.7%

医療の質と安全の管理

9.6%

コミュニケーション能力

9.5%

医師としての基本的価値観
(プロフェッショナリズム)

8.7%

チーム医療の実践

8.1%

診療技能と患者ケア

7.8%

医学知識と問題対応能力

5.7%

地域医療における診療能力

38.0%

科学的探究

32.6%

社会における医療の実践

26.1%

一般外来における診療能力

25.9%

初期救急における診療能力

20.3%

生涯にわたってともに学ぶ姿勢

19.9%

医学・医療における倫理性

17.3%

病棟における診療能力

14.4%

コミュニケーション能力

13.4%

医療の質と安全の管理

12.2%

医師としての基本的価値観
(プロフェッショナリズム)

11.6%

チーム医療の実践

10.4%

診療技能と患者ケア

9.5%

医学知識と問題対応能力

7.9%

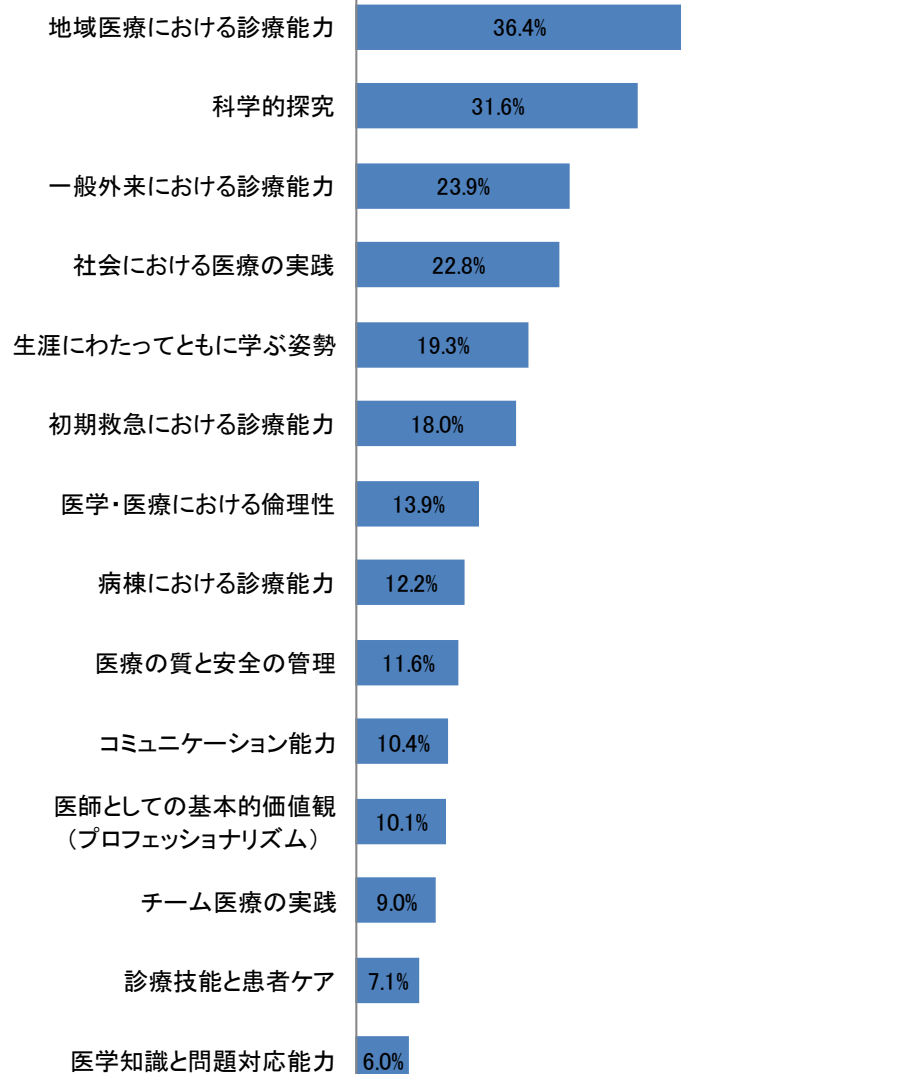
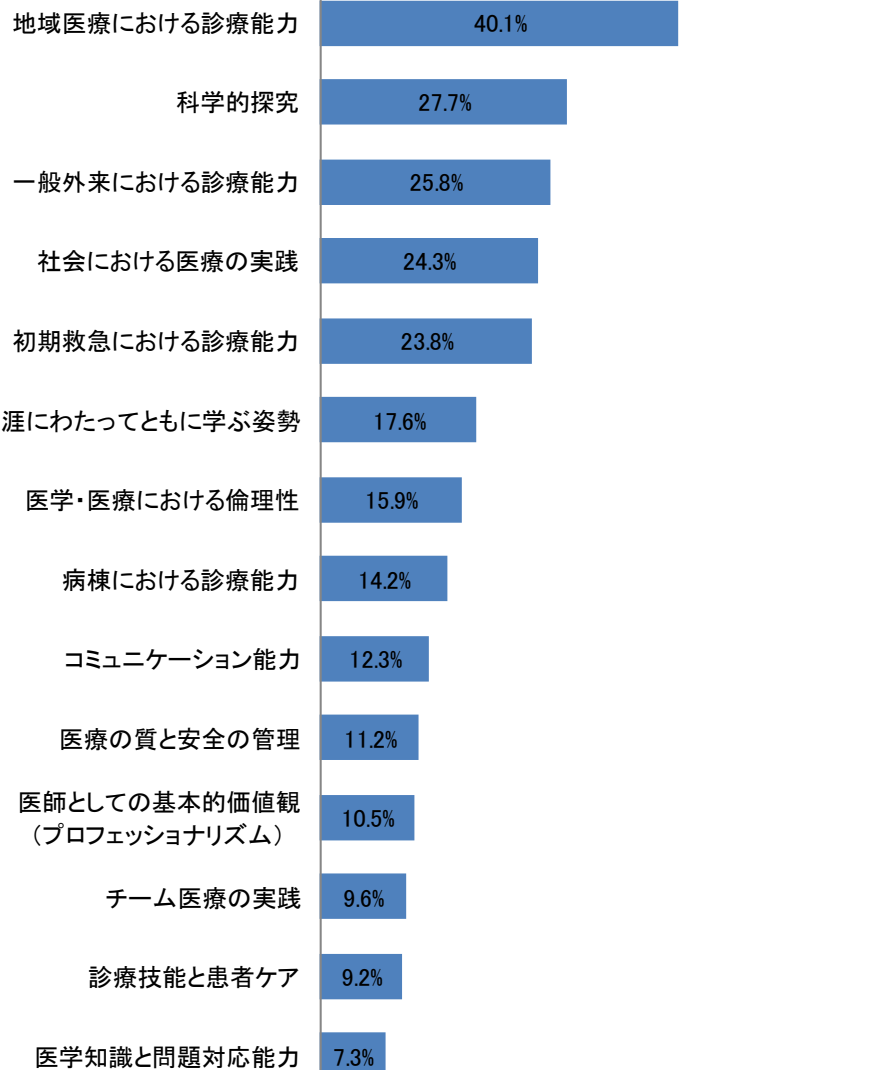
実施した指導 「1（あまり指導できなかった）」または「2」と回答した割合（降順）

【平成15年度以前の臨床研修を修了(n=18,848)】

【平成16年度以降の臨床研修を修了(n=4,532)】

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%



医療の持つ社会的側面を踏まえた指導 「1（あまり指導できなかった）」または「2」と回答した割合（降順）

【大学病院(n=10,064)】

【臨床研修病院(n=13,736)】

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%

災害や感染症パンデミックなどの
非日常的な医療需要

55.3%

災害や感染症パンデミックなどの
非日常的な医療需要

58.4%

地域包括ケアシステムの推進

48.3%

地域包括ケアシステムの推進

51.1%

予防医療・保健・健康増進

42.0%

予防医療・保健・健康増進

46.6%

後発品など薬効と価格を
考慮し使い分ける

41.7%

後発品など薬効と価格を
考慮し使い分ける

43.2%

地域の健康問題やニーズを把握し、
必要な対策を行うこと

39.5%

健康保険、公費負担医療の
適切な活用

43.2%

健康保険、公費負担医療の
適切な活用

39.1%

保健医療に関する法規・制度の
目的と仕組み

42.5%

保健医療に関する法規・制度の
目的と仕組み

38.4%

地域の健康問題やニーズを把握し、
必要な対策を行うこと

41.6%

AMR予防を意識した
抗生物質・抗菌薬の適正使用

33.2%

AMR予防を意識した
抗生物質・抗菌薬の適正使用

33.9%

費用対効果などを考慮した臨床

28.4%

費用対効果などを考慮した臨床

29.1%

医療の持つ社会的側面を踏まえた指導 「1（あまり指導できなかった）」または「2」と回答した割合（降順）

【平成15年度以前の臨床研修を修了(n=18,848)】

【平成16年度以降の臨床研修を修了(n=4,532)】

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%

災害や感染症パンデミックなどの
非日常的な医療需要

57.8%

地域包括ケアシステムの推進

50.9%

予防医療・保健・健康増進

45.6%

後発品など薬効と価格を
考慮し使い分ける

43.4%

健康保険、公費負担医療の
適切な活用

41.7%

地域の健康問題やニーズを把握し、
必要な対策を行うこと

41.6%

保健医療に関する法規・制度の
目的と仕組み

41.0%

AMR予防を意識した
抗生物質・抗菌薬の適正使用

34.5%

費用対効果などを考慮した臨床

29.6%

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%

災害や感染症パンデミックなどの
非日常的な医療需要

57.6%

地域包括ケアシステムの推進

48.4%

予防医療・保健・健康増進

43.2%

健康保険、公費負担医療の
適切な活用

42.5%

保健医療に関する法規・制度の
目的と仕組み

42.4%

後発品など薬効と価格を
考慮し使い分ける

40.8%

地域の健康問題やニーズを把握し、
必要な対策を行うこと

38.9%

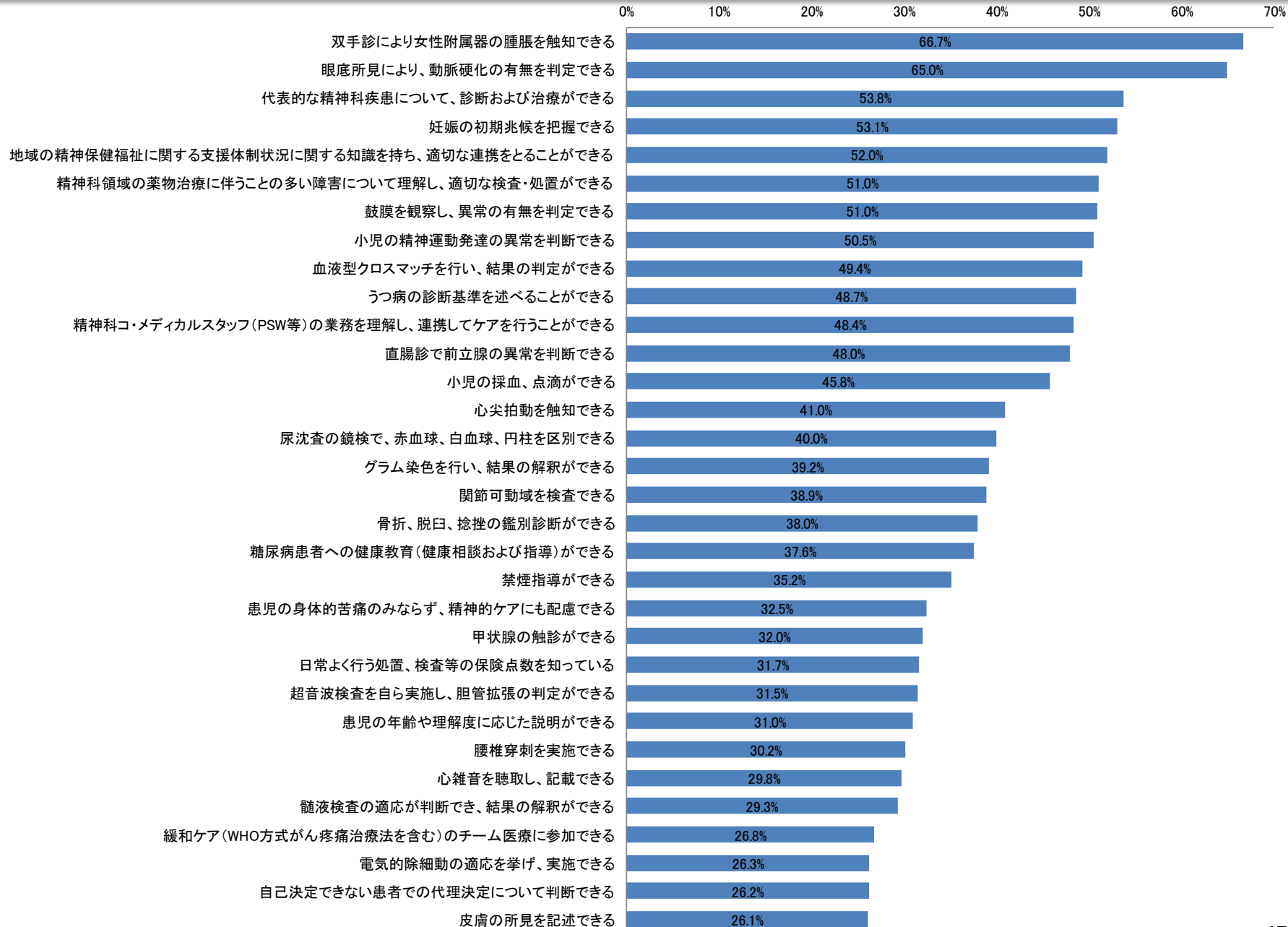
AMR予防を意識した
抗生物質・抗菌薬の適正使用

30.6%

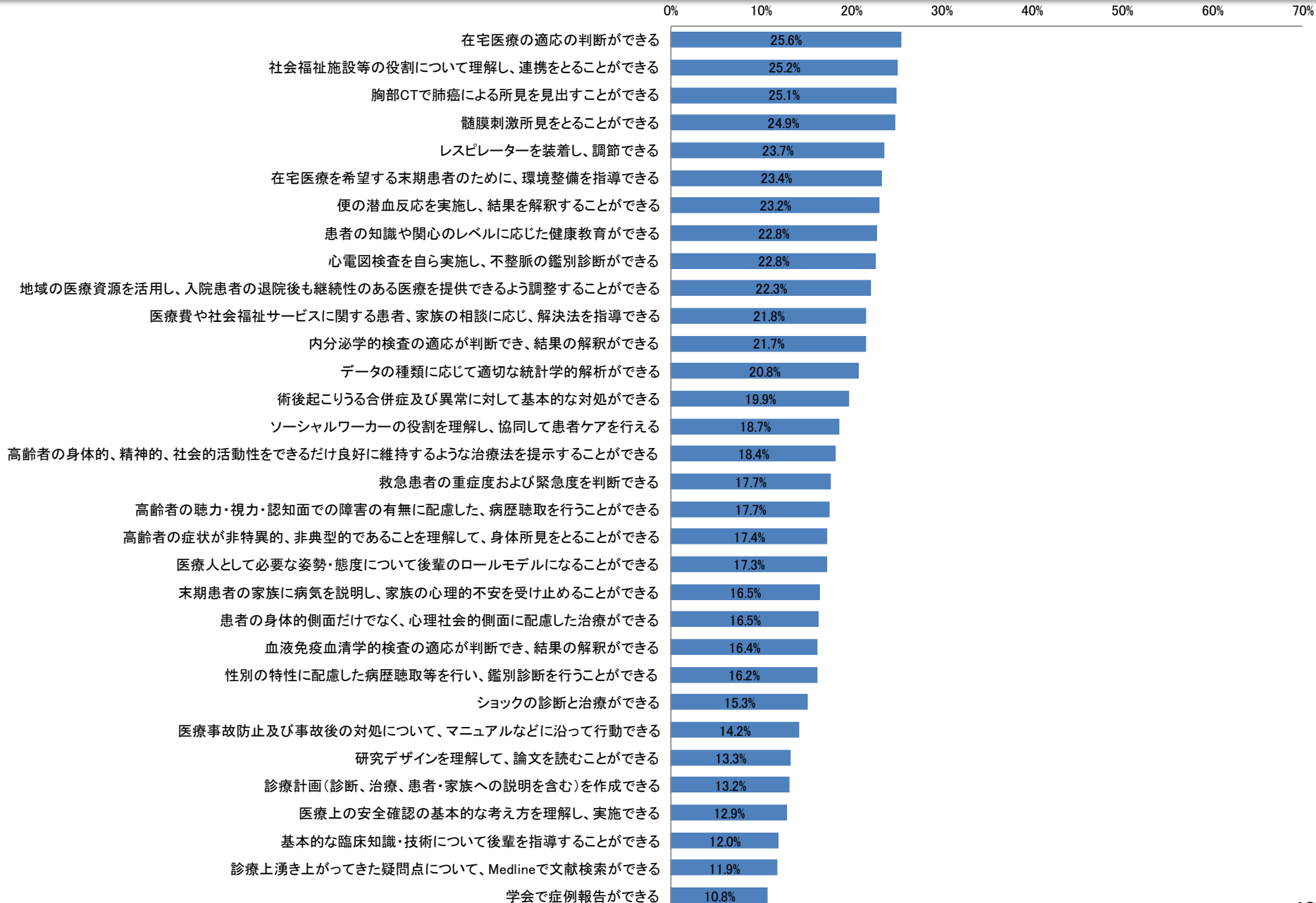
費用対効果などを考慮した臨床

26.9%

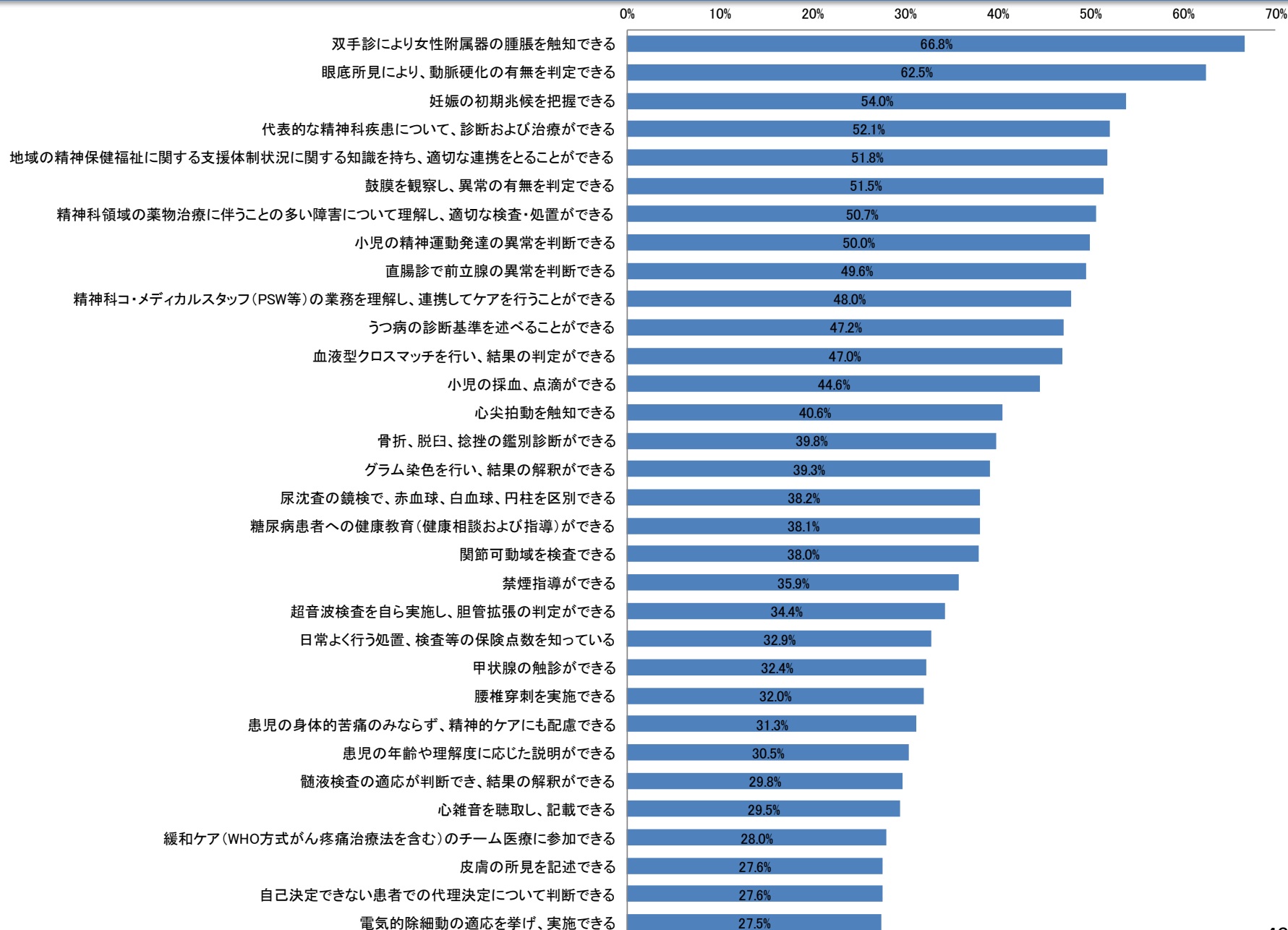
回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が診療を行う上で役立っているか 「あまり役立っていない」または「役立っていない」と回答した割合（全体、降順）



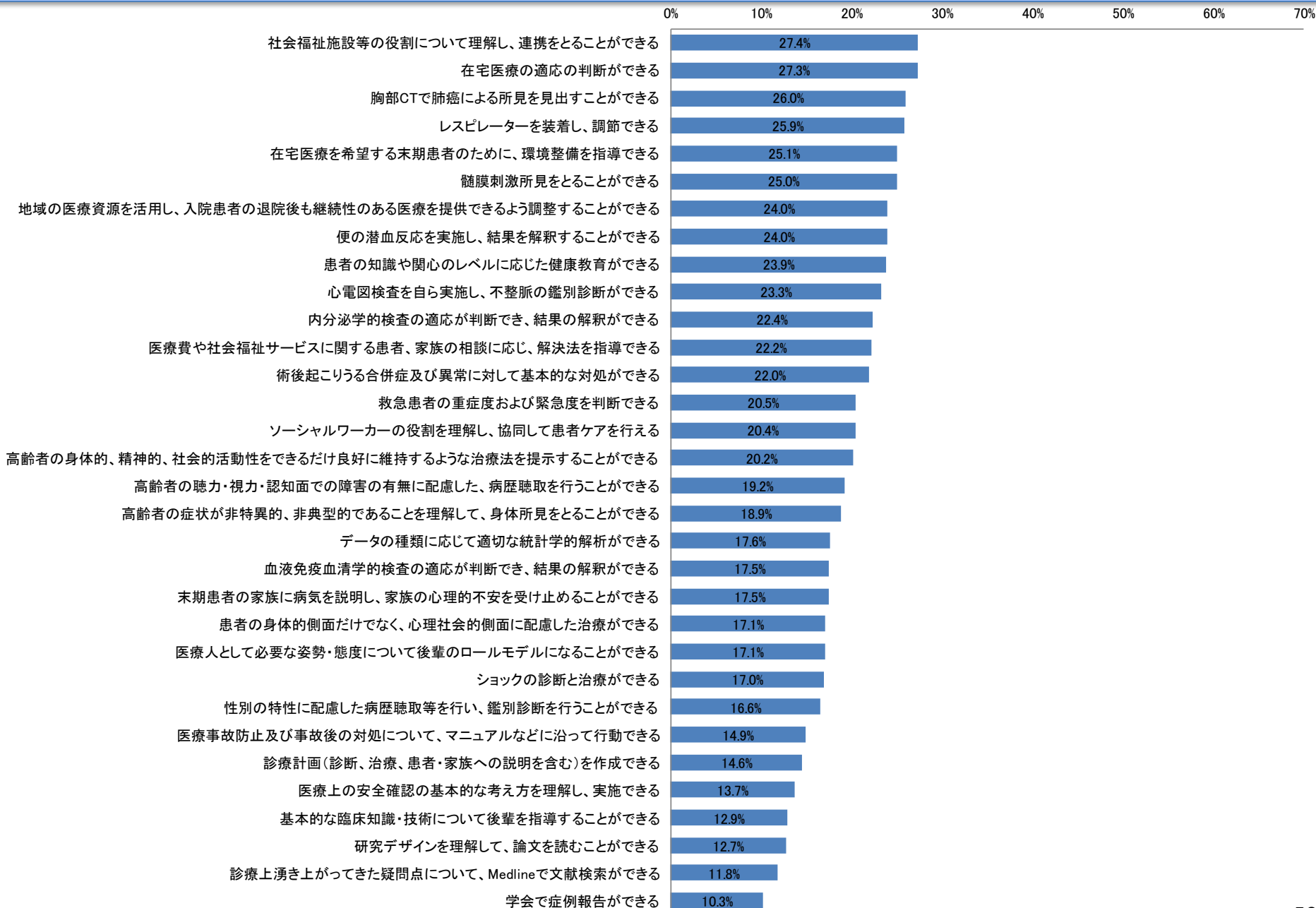
回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が診療を行う上で役立っているか 「あまり役立っていない」または「役立っていない」と回答した割合（全体、降順）



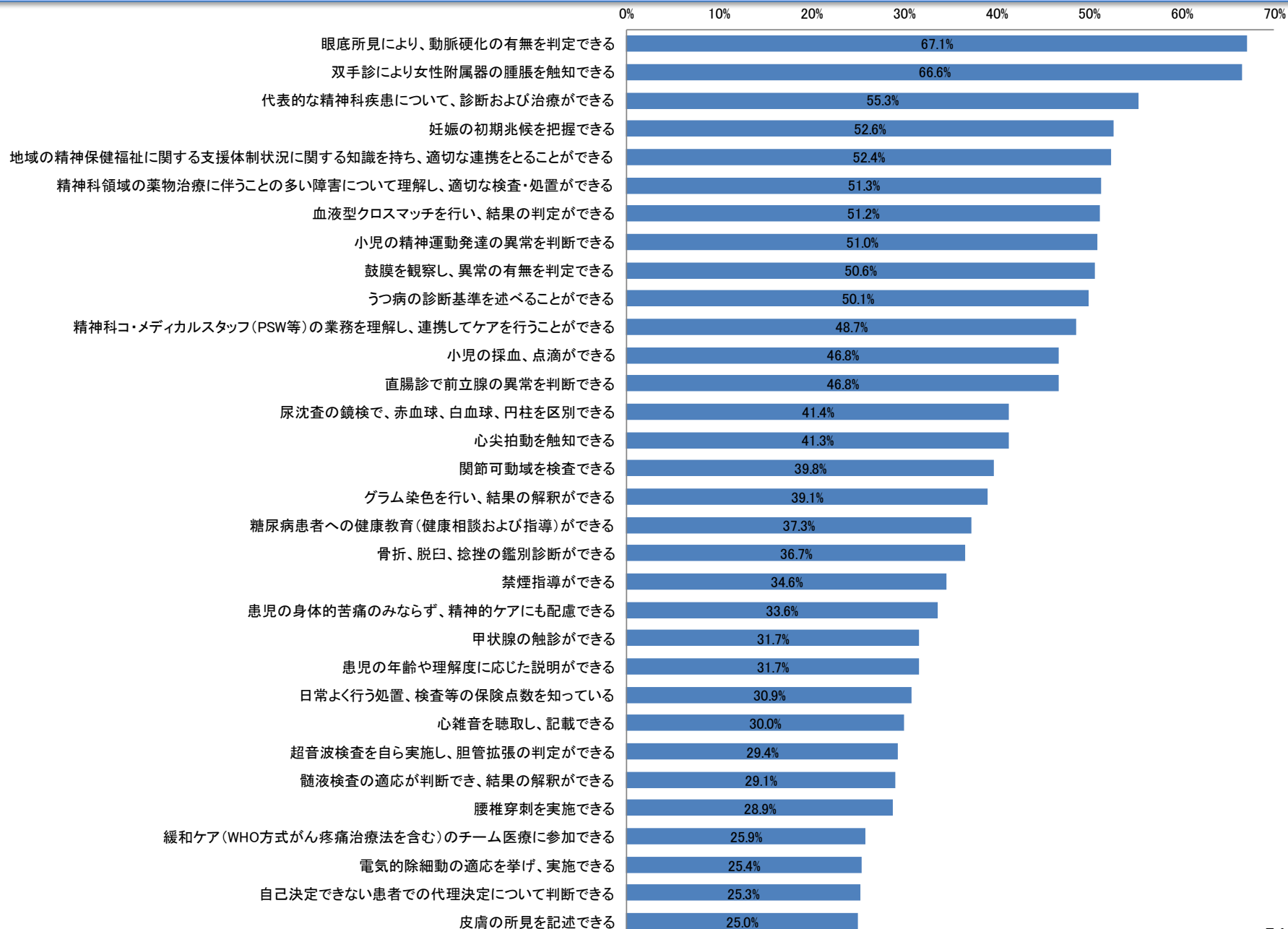
回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が診療を行う上で役立っているか 「あまり役立っていない」または「役立っていない」と回答した割合（大学病院、降順）



回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が診療を行う上で役立っているか 「あまり役立っていない」または「役立っていない」と回答した割合（大学病院、降順）



回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が診療を行う上で役立っているか 「あまり役立っていない」または「役立っていない」と回答した割合（臨床研修病院、降順）



回答者自身が修得した臨床知識・技術・態度が診療を行う上で役立っているか 「あまり役立っていない」または「役立っていない」と回答した割合（臨床研修病院、降順）

